

海陽町子どもの読書活動推進計画

(第三次推進計画)



令和8年3月

海陽町教育委員会

はじめに

読書活動は、子どもたちが言葉や知識を身につけ、感性を豊かにし、考える力や表現力を育むとともに、創造力や人生をより深く生きる力を培う、欠かすことのできない大切な活動です。本を通して多様な世界や価値観に触れる経験は、他者を思いやる心や、自ら考え行動する力を育み、子どもたちの健やかな成長を支えます。

海・山・川といった豊かな自然に囲まれ、人と人とのつながりを大切にしてきた本町においては、家庭や地域での温かな関わりの中で子どもを育てる文化が受け継がれてきました。こうした環境の中で、読書は子どもたちが落ち着いて自分と向き合い、想像力を広げる大切な時間となります。

一方、近年の情報化社会の進展により、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化し、多様な情報に触れる機会が増えています。そのような時代だからこそ、文字を通してじっくりと考える読書の役割はより重要となり、思考力や判断力を育む意義はますます高まっています。

本町では、平成 27 年に第一次推進計画を、令和 2 年には第二次推進計画を策定し、家庭・学校・地域・図書館が連携しながら、朝読書や読み聞かせ、図書館行事などを通して、子どもたちが本に親しむ環境づくりを進めてきました。

このたび、第二次推進計画の期間終了を受け、これまでの取組を継承・発展させるとともに、子どもを取り巻く環境の変化を踏まえ、「第三次海陽町子どもの読書活動推進計画」を策定しました。

本計画では、「意識」「習慣」「環境」「体制」の四つの柱を軸に、家庭・学校・地域・図書館が連携し、子どもたちが身近な場所で読書の楽しさを実感できる環境づくりを進め、生涯にわたって学び続ける力の育成を目指します。

最後に、本計画の策定にあたり、ご理解とご協力をいただきました関係者の皆様に心より感謝申し上げます。今後とも、本町の子どもたちの読書活動推進に向け、温かいご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和8年3月

海陽町教育委員会

教育長 三浦 良

目 次

第1章 第二次推進計画の成果と課題.....	2
1 第二次推進計画策定後の情勢変化.....	2
2 第二次推進計画の成果.....	4
3 第二次推進計画の課題.....	6
第2章 基本的な考え方.....	6
1 「海陽町子どもの読書活動推進計画」策定の趣旨.....	6
2 基本目標.....	7
3 計画の体制.....	8
4 計画の期間.....	8
第3章 子どもの読書活動推進のための取組.....	9
1 家庭における子どもの読書活動の推進.....	9
(1) 家庭・地域の役割.....	9
(2) 具体的な取組.....	9
2 保育所・こども園における子どもの読書活動の推進.....	10
(1) 保育所・こども園の基本方針.....	10
(2) 具体的な取組.....	10
3 学校における子どもの読書活動の推進.....	13
(1) 学校の基本方針.....	13
(2) 具体的な取組.....	13
4 図書館における子どもの読書活動の推進.....	16
(1) 町立図書館の基本方針.....	16
(2) 具体的な取組.....	16
第4章 家庭・学校・地域の連携による子どもの読書活動の推進.....	18
1 家庭・学校・地域の連携による読書活動の推進.....	18
2 具体的な取組.....	18
参考資料: 読書活動についてのアンケート調査結果.....	20

第1章 第二次推進計画の成果と課題

1 第二次推進計画策定後の情勢変化

海陽町では平成27年3月に「海陽町子どもの読書活動推進計画」を、令和3年4月には第二次推進計画を策定し、子どもの読書活動の推進に取り組んできました。

第二次推進計画が策定されてから本町の子どもの読書活動を取り巻く社会情勢、国の関連法整備状況、県内の教育諸施策も大きく変化しています。

【国の動向】

(1)「子どもの読書活動」に関連する法制上の整備

・平成27年4月に「学校図書館法」(昭和28年法律第185号)が改正・施行され、学校司書の配置が努力義務となりました。

・令和4年「第6次学校図書館図書整備等5か年計画」において、公立小中学校等の学校図書館における、学校図書館図書標準の達成、計画的な図書の更新、新聞の複数紙配備学校司書の配置拡充が図られることを目的としており、本計画に基づいた地方財政措置が講じられています。

・令和5年3月には5か年計画の「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画(第五次計画)」が策定され、市町村においては子どもの読書活動の推進のための必要な環境及び体制を整備するとともに、計画の見直しを行うよう努めることとされました。

(2)新学習指導要領の全面实施(小・中・高)

・小学校は令和2年度から、中学校は令和3年度から、高等学校は令和4年度から全面实施されています。

・言語活動の充実に加え、学校図書館を計画的に利用し、その機能の活用を図り、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、児童生徒の自主的・自発的な学習活動や読書活動を充実すること、また地域の図書館等の活用を積極的に図り、資料を活用した情報の収集活用等の学習活動を充実させること等が求められています。

【県の動向】

(1)「徳島県読書活動の推進に関する条例」の制定

この条例は、県民すべてが読書活動に取り組める環境を整え、「文化的で豊かな県民生活」の実現を目指すものです。条例の目的や責務には、学校・図書館・地域との連携、県民の自主的な読書活動の促進などが含まれています。

(2)読書推進の継続的な体制－徳島県子どもの読書活動推進協議会

この協議会は、子どもの読書活動を支えるために設けられており、県民や教育・地域関係者などを交えて、読書活動の環境づくりや推進計画の進捗の評価・検証を行っています。

(3)徳島県子どもの読書活動推進計画(第5次推進計画)

県は、国の「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」の改定を受けて、さらに県独自の「第5次推進計画」を策定しました。施策期間は令和6年10月からの5年間で、学校・家庭・地域の連携による読書環境整備と、子どもの自主的な読書活動の支援が基本方針とされています。

(4) 子ども向けブックリストや読書支援活動の展開

県の徳島子供読書ネットワークでは、子ども向けのブックリスト「とくしまの子どものためのブックリスト100!」や「とくしまの赤ちゃんのためのブックリスト100!」を公開・配布しており、本との出会いや読書習慣のきっかけづくりを支援しています。

(5) 徳島県教育振興計画

現行の徳島県教育振興計画(第4期:令和5~令和8年度)では、「心豊かに生きる教育の推進」の一環として、読書活動を含む「豊かな感性と社会性を育む体験的な活動や読書活動、道徳教育等の多様な教育機会」が教育の重要な柱とされています。

【町の動向】

海陽町では、平成23年に「海陽町教育振興計画」、平成28年に「第2期海陽町教育振興計画」、令和3年3月には「海陽町教育大綱及び第3期海陽町教育振興計画」を策定しました。

(1) 海陽町読書活動推進連絡会の活動

海陽町子どもの読書活動推進計画に基づき「海陽町子どもの読書推進連絡会」を開催し、意見交換、情報提供等協議を行いました。

(2) 各種機関の連携による環境整備

子どもの読書活動推進のため、学校、認定こども園、保育所、子育て支援センター、図書館、ボランティア団体と連携を図りながら、子どもの自主的読書活動を推進する環境整備を進めました。

(3) 海陽町教育に関する事務の管理及び執行の状況点検及び評価報告

教育委員会が実施する事務事業の見直しや改善に取り組んでいます。

(4) 海陽町教育振興計画に基づく施策

第3期海陽町教育振興計画の中で、小中学校の図書を充実させ、授業での調べ学習や家庭での読書時間の確保を進めています。また学校と図書館が連携し、読書活動の推進に努めてきました」す。

2 第二次推進計画の成果

第二次推進計画策定以降の取組みの成果として、次のようなものが挙げられます。

【小中学校】

小・中学校では、児童生徒がより良い学習環境で読書活動に取り組めるよう、環境の充実を図るため、学校図書館の整備を一層進めました。蔵書数の充実やテーマ別コーナーの設置、図書の分類・配置の見直しにより、子どもたちが本に親しみやすく必要な資料を探しやすい環境が整備されました。

小学校では、タブレットを活用した読書活動が推進され、児童は電子書籍や音声読み上げ機能を利用することで、読書の幅を広げました。また、タブレットの本の推薦機能を活用することで、自分の興味に応じた本を選ぶ力や表現力も向上し、ICTを活用した新しい学びの機会として成果を上げることができました。

中学校では、移動図書館車の巡回を開始しました。定期的に学校を訪れる移動図書館車により、多様なジャンルの本を手軽に借りられるようになり、これまで学校では手に取りづらかった資料や新刊本にも触れる機会が増えました。この取組みにより、生徒の読書意欲が向上し、読書活動の活性化が実現しました。

【保育所・こども園】

保育所やこども園では、乳幼児期からの読書習慣の定着を目指し、さまざまな取組みが行われています。保育士やボランティアによる読み聞かせを積極的に実施するとともに、園便りで推薦図書を紹介することで、家庭でも子どもたちが本に親しむきっかけが提供されました。

また、絵本の月刊誌を取り入れて園での読書環境を充実させたり、移動図書館車を活用して複数の園に多様な本を届ける取組みも行われました。これらにより、子どもたちは家庭や園で本に触れる機会を増やし、読書活動への関心と意欲の向上が確認されました。

【図書館】

第二次推進計画においては、第一次推進計画の成果を踏まえ、地域社会や学校とのさらなる連携、図書館情報のインターネット公開など、意欲的な目標が立てられました。

その中で実現した成果としては、

- ①読書感想文の課題図書展示や、読書感想画を図書館で展示するなど、学校関連の特設コーナーが設置されました。
- ②移動図書館による貸出を計画からさらに踏み込んで試行錯誤し、中学校への移動図書館車巡回を開始して、多くの利用をいただいています。
- ③図書館が管理しつつ地域住民の自主的な読書活動に支えられる海部公民館の「まちライブラリー」が大幅に拡充され、活用されています。
- ④学校の卒業制作や特別授業の成果を公表する「デジタル・メディア・ラボ」ホームページが作成され、図書館にも親しめるようなプラットホームが開設されました。

また、第二次推進計画では当初、活字離れを懸念してICT機器に対し抑制的な方針を立てていましたが、令和5年以降の国の第五次計画や県の第5次推進計画が相次いで図書館のDX(デジタル化)やICT機器の活用を謳い、町内各校でもタブレット利用が進展する中、図書館でもICT機器活用に向けて「デジタルえほん室」や「デジタルつくる室」を開室し、ICT機器の利用を子どもの読書活動推進につなげる試みをしています。

★移動図書館による貸出

町内の小学校を図書館車で巡回することにより、児童への貸出サービスを行っています。

移動図書館 貸出数(海部・宍喰小学校)						
	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度(推定)
一人当貸出数	91冊	94冊	946冊	84冊	79冊	62冊
貸出冊数	12,169冊	12,912冊	13,418冊	11,790冊	10,396冊	7,716冊
生徒数	134人	137人	142人	140人	132人	124人



★業間貸出

図書館に隣接する海南小学校へは業間貸出を行っています。2週間に1度、図書館内で各学年へ本の貸出が行われます。

業間 貸出数(海南小学校)						
	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度(推定)
一人当貸出数	66冊	64冊	61冊	67冊	73冊	65冊
貸出冊数	9,243冊	8,672冊	7,670冊	8,523冊	8,741冊	7,149冊
生徒数	140人	134人	124人	126人	119人	110人



3 第二次推進計画の課題

第二次推進計画期間後の課題として、次のような課題が挙げられます。

(1) 学校図書館のさらなる充実

蔵書数やテーマ別コーナーの整備は進んだものの、児童生徒の多様な興味や学習内容に対応するため、専門的な資料や新刊の充実、ICTとの連携のさらなる強化が求められます。

(2) 読書活動における個別支援の強化

タブレットや図書館システムの活用により読書環境は改善されましたが、児童生徒一人ひとりの読書興味や学習ニーズに応じた個別支援や読書指導の充実が課題です。

(3) 地域との連携の拡大

中学校での移動図書館車の活用は成果を上げていますが、地域図書館や公共施設との連携をさらに広げ、より多様な本や体験型の読書活動を提供する余地があります。

(4) 家庭との連携の強化

保育所やこども園では家庭への情報提供が行われていますが、家庭での読書習慣形成や児童生徒の読書意欲向上に向け、保護者への支援や啓発活動の充実が求められます。

(5) ICT活用の継続的改善

タブレットや検索システムの導入は一定の成果を上げているものの、機器の操作指導や教材・アプリの質の向上、教職員のICT活用スキルの向上など、継続的な改善が課題です。

第2章 基本的な考え方

1 「海陽町子どもの読書活動推進計画」策定の趣旨

子どもの読書活動の推進に関して、国においては「子どもの読書活動の推進に関する法律」

(平成13年12月公布・施行。以下「推進法」という。)に基づき、平成14年8月に「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」(第一次基本計画)が定められました。

この計画は、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備を推進することを基本理念として、施策の総合的かつ計画的な推進を図るためのものとして策定されました。

さらには、その成果と課題を踏まえ、今後の施策の基本的方向と具体的な方策を明らかにするものとして、平成20年3月には第二次基本計画、平成25年5月には第三次基本計画、平成30年には第四次基本計画、令和5年3月には第五次基本計画がそれぞれ策定され、県においても令和6年10月に「徳島県子どもの読書活動推進計画」(第5次推進計画)が策定されました。

本町においては、「海陽町教育振興計画」に基づき、「海陽町子どもの読書活動推進計画」を策定し、子どもの読書活動を進めてきました。

読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことができないものであり、社会全体でその推進を図っていくことは、極めて重要です。

そこで、本町においても、国・県の計画の趣旨に基づいて、子どもの自主的な読書活動の重要性を踏まえて、その推進を図る施策の基本的方向と具体的な取組を示すものとして、「海陽町子どもの読書活動推進計画」(第三次推進計画)を策定します。

2 基本目標

本町では、第二次推進計画策定以降、子どもの読書活動の推進に取り組んできました。第二次計画では、基本目標として「生きる力をはぐくむ読書習慣の育成」を掲げ、小さい頃から読書に親しむことの重要性が確認されました。また、推進の軸として、以下の四つの柱を設定しました。

【意識】(読書の楽しさや読書をすることによって得られるメリットを意識させる)

読書に対する関心を高めるとともに、本を読むことでどのようなメリットがあるのか、また、読み聞かせを行うことでどのような能力が養えるのか、など、子どもたちと保護者、大人に対して子どもの読書活動に対する理解を深めてもらう。

【習慣】(朝読や黙読の時間を継続して確保することにより、読書を習慣化させる)

短時間でもよいので毎日読書をする習慣を身につける。読書習慣を身につけることで読む力と生涯学習に必要な力を育成する。

【環境】(読書環境を整えることにより、読書がしやすい状況を作り出す)

必要とする資料の提供や読書がしやすい施設づくり、また、希望する本がすぐに手に入るシステムの充実など、読書環境を整備することは読書活動を推進するための基本的な条件である。支援を必要とする子どもたちをはじめ、全ての子どもが読書しやすい環境を作り出すことに重点を置く。

【体制】(関係団体が連携をとり支援体制を充実させる)

読書活動を推進する人材の育成、組織・ネットワークづくり、広報・啓発など支援体制の整備を行うとともに、各団体相互の連携を強める。

子どもの主体的な読書活動を推進するため、「海陽町子どもの読書活動推進計画」(第三次推進計画)においては、第二次推進計画同様に、子どもたちが主体的に読書活動に取り組める環境を整備します。そして、子どもの読書活動の意義や重要性についての理解関心を高め、家庭・地域・学校の連携のもと、子どもが自主的に読書活動に取り組む環境の整備を進め、子どもが豊かな心を育み、生涯にわたり自ら学ぶことのできる力の育成を目指します。

3 計画の体制

第二次推進計画の課題をふまえ、計画を実行する体制としては、家庭、保育所・こども園、学校および図書館の各セクターで行われる取り組みを基盤に、地域全体で協働する取り組みを設け、重層的に子どもの読書を推進していきます。特に、本計画の体制を考えるにあたり、他の市町村に比較して本町の特色は、博物館と文化館を有しているところにあります。

博物館と図書館は、歴史をひもとけば元々ひとつであったものが、博物学の発達によって博物館が独立したという流れがありますが、本町は小さな町であるにもかかわらず博物館を社会教育の主体のひとつとすることができている貴重な環境を保持しています。

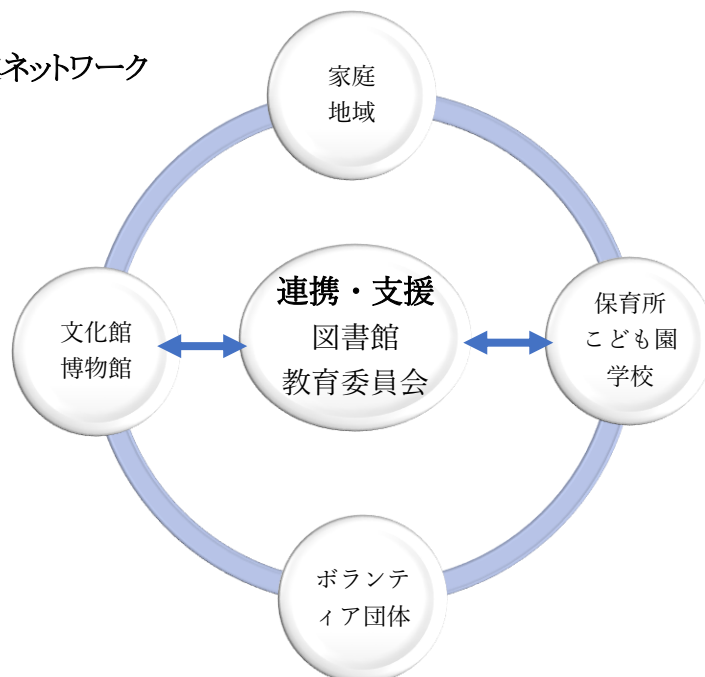
文化館は、公民館とも密接に重なり合っている施設ですが、現代欧米においては公民館という施設は特設設けられておらず、図書館がその役割を担っているという現状があります。そのため、欧米において図書館は、我が国一般に見られる図書館よりも多様な機能をもたえて活動していますが、近年我が国においても先進的な事例を参照すれば、欧米式の図書館活動が全国的に模索されています。

子どもの読書活動を推進するに当たっても、博物館、文化館、公民館にもその一端を担っていただき、より効果的な計画と施策を展開することを今次計画においては強く推奨します。

今次計画の体制図においては、子どもの読書活動推進計画のもとに教育委員会と図書館を設置し、体制のコアとして計画および施策を強力に推進するとともに、保育所・こども園・学校、家庭・地域、博物館・文化館、ボランティア団体等、という四つのセクターの情報を常時詳細に収集して、それぞれの計画推進力を最大限に発揮できるよう、変更を施しました。

同時に、これらの計画と施策実施および情報収集が少ない職員数の中で最も効率的に行われるよう、図書館システムを活用したシステムネットワークも構築することが求められます。これにより、学校図書館それぞれの資料整備状況や、子どもの読書活動に関与できていないセクターの参画等を、劇的に改善することを目指します。学校等での図書館業務負担を改善し、かつ効果的に図書委員や学校生徒児童を教員が指導することができることを目標とします。

子どもの読書推進ネットワーク



4 計画の期間

この計画は、令和8年度から令和12年度までの5年間とし、必要に応じて見直しをします。

第3章 子どもの読書活動推進のための取組

1 家庭における子どもの読書活動の推進

(1) 家庭・地域の役割

本に親しみ、進んで本を読む子どもを育てる基盤は家庭や地域にあります。特に乳幼児期からの家庭での取り組みは、子どもの読書習慣形成に大きな影響を与えます。幼いころからの読み聞かせを通じた保護者の愛情表現は、本を読むことへの意欲を育むだけでなく、家族の絆や自己肯定感の形成にも寄与します。

子どもたちに自然に読書習慣を身に付けさせるためには、保護者や周囲の大人自身が積極的に読書を行うとともに、読書環境を整え、読書の楽しさを伝える姿勢が重要です。また、地域においても、公民館や子ども館、図書館などでの絵本の読み聞かせや行事を通じて、子どもたちが本に親しむ機会を増やす取り組みが求められます。

(2) 具体的な取組

① ブックスタート事業の推進

春と秋の年2回、ブックスタート事業を継続して実施し、0歳から始める絵本の読み聞かせの重要性を保護者に伝えます。これまで2冊の本を贈呈していましたが、要望があれば3冊に増やし、より長く思い出の本として子どもの記憶に残るよう推進します。

② 家読・家庭読書の実施

保育所・こども園に加え、小学校を含めて「ノーゲーム・ノーテレビの家庭読書の日」を定期的に設けます。発達段階に応じた家庭での読書時間(家読)を推進し、家庭と園・学校が連携して継続的な読書習慣の定着を図ります。あわせて、テレビやゲームに触れる時間を見直す機会とし、子どもの豊かな心と言葉の力を育む環境づくりを進めます。

③ おはなし会の実施

ボランティア団体を中心に、幼児から小学生を対象とした毎月のおはなし会を、図書館や子ども館、ファミリーサポートセンターで継続します。また、海南図書館に開室したデジタルえほん室の成果を参照し利用することで、子どもたちのおはなし会への参加を効率的に促進します。

④ 児童書リストの配布

国の子ども家庭庁では、児童福祉法に基づき、毎年「児童福祉文化財作品」を選定して、「こどもたちに読んでほしい本」を公表しています。これをリスト化して、ブックスタートやおはなし会、保育所やこども園を通じて保護者に配付し、家庭での読書活動を推進します。

⑤ 「子ども読書の日」「こどもの読書週間」の活用

4月23日は、ユネスコが「世界・本と著作権の日」と定めており、日本では「子ども読書の日」としております。また、この日からこどもの日を挟んで20日間は「こどもの読書週間」とされ、全国各地で子どもの読書に関するイベントが開催されます。町においても、子どもの読書活動を推進するイベントを企画します。

2 保育所・こども園における子どもの読書活動の推進

(1) 保育所・こども園の基本方針

幼児期において、大人の語りかけの内容や量は、子どもたちのことばの力を育むうえで非常に大切です。しかし、現代では動画やテレビ、ゲームなどを通して一方的に情報が届くことが増え、子どもたちが大人から直接受け取る自然なことばに触れる機会が減少しています。

保育所やこども園では、絵本の読み聞かせや日常の語りかけを通して、子どもたちの健やかな成長を促し、ことばの力を育てます。さらに、読書環境を整えたり、移動図書館車を活用したりして、読書の機会を増やす工夫も積極的に行います。また、保護者に対しても読み聞かせや家庭での読書(家読)の大切さを伝え、家庭と園が協力して幼児期からの読書活動を進めています。

(2) 具体的な取組

- ① 絵本の読み聞かせを通じて、子どもたちがさまざまなことに興味や関心を持ち、豊かな心情や感性を育むとともに、生命の大切さについても伝えていきます。
- ② 読み聞かせを継続的に行い、作者の意図が伝わるような絵本や紙芝居の提供します。
- ③ 絵本の読み聞かせの重要性や絵本に関する情報を保護者と共有し、家庭での読書活動に繋がります。
- ④ 日常生活の中で常に絵本に触れられるよう、読書環境の整備を進めます。
- ⑤ 読書に関する職員研修を実施し、子どもたちの読書状況や興味関心の向上に繋がります。
- ⑥ 図書館と連携を取り、移動図書館車の有効な活用を進めます。

【取組事例 穴喰保育所】

絵本は穴喰保育所の子ども達にとって大切なもので、それぞれの年齢の子どもたちの様々な場面に豊かにかかわってくれるものです。みんなで楽しめる保育士による読み聞かせ・保育士の膝に座り、肌のぬくもりを感じながら心地よく楽しむ絵本。自分の好きな絵本を選び、一人で世界観を楽しんだり、友だちと共有したり…。今後はもっと絵本に親しめるように、絵本コーナーを広げ、ゆったりと自然体で楽しめるような空間にしよう環境整備を進めています。

絵本を通して五感をフルに働かせ、言葉や世の中の様々な知識を獲得したり、仲間との情緒的な絆を深めたりと、年齢に応じた楽しみ方ができるように工夫しながら取り組んでいきたいと考えています。



友達と一緒に楽しむ



読み聞かせ



今日はどの本にしようかな

【取組事例 二葉保育園・かいはよう保育所】

★保育園だより・絵本との出会い

保育園では、毎月おすすめの一冊を「園だより」で紹介し、いつでも借りられるように玄関に配置しています。その月の季節や行事に合わせた絵本を選んだり、親子で読んで気持ちがリラックスできるものを選ぶよう心掛けています。玄関で自由に貸し借りができるため、子どもも保護者の方も身近に手に取って見て、借りることができます。

同じ本を何度も読みたがり、「あの本がなかったら嫌だ」と帰りがらない子の姿が見られた際には、別の何冊かの本を差し出すと、その中から選んで笑顔で帰る姿もあります。また、「寝る前のルーティンとして絵本を借りています」という保護者の方もおられました。



★遊びへの発展、劇のストーリーと演出

本年度は、4歳児が表現会で「だいこん にんじん ごぼう」の絵本を大好きになり、何度も読み合いをしていたことから、劇遊びへと展開しました。ストーリーは、だいこん、にんじん、ごぼうが真っ黒な体をお風呂で洗い、熱いお風呂に入るといものです。

- ・にんじん:熱いお風呂に入って赤くなった
- ・だいこん:きれいに体を洗って白くなった
- ・ごぼう :洗うのが面倒で黒いまま というコミカルな内容です。

色の変化を中心に、子どもたちはお風呂の様子などを楽しみ、劇遊びにおいてもストーリーに合わせてセリフを取り入れました。

お風呂をたくシーンでは、焚き木を集めてくべる、水を入れる、火をつけて火吹き棒で空気を送り込む、さらに湯もみをするなどの動きの表現を、子どもたちは楽しみました。



「パチパチ」「フーフー」「ジャバジャバ」「まぜまぜ」といった効果音を口にしながら、最後は大好きな野菜の歌に合わせて踊り、楽しい笑顔いっぱいの舞台で幕を閉じました。

★今後の取り組み

今後も、子どもたちが今興味・関心をもっていることに目を向け、絵本から新たな遊びへと発展したり、好きなもの・好きなことを通して、絵本を聴く・読む楽しみを深め、大切に育んでまいりたいと思います。また、親子でお迎えに来た際にゆっくりと絵本選びができるよう、絵本スペースを充実させ、貸し借りがスムーズにできるシステムを検討していきたいと考えています。

★おはなし会



★デジタル絵本室



【取組事例 かいようこども園】

かいようこども園では、子ども達が日常的に絵本に親しめるよう教諭による毎日の読み聞かせを大切にするとともに、季節に応じた絵本や子ども達に見てもらいたい絵本、興味がありそうな絵本をピックアップして定期的に絵本の入れ替えを行っています。

また、月に2回の移動図書館車による絵本貸し出しを行っており、借りた本は園内で繰り返し楽しんだり、家庭に持ち帰って保護者と一緒に味わったりすることで絵本に触れる時間や経験が広がっていくよう取り組んでいます。

誕生会や季節の行事においては、絵本を題材としたペープサートや大型絵本、人形劇などの出し物を取り入れ、さらに、新年度から親しんできた絵本、好きな絵本をもとに、オペレッタや劇遊びなどの表現遊びも楽しみ、物語の世界をより身近に感じられるよう工夫しています。普段の絵本とは異なる絵本との出会いに子ども達は興味津々で夢中になって見たり、自信をもって絵本の中の人物や動物になりきって楽しんだり物語の世界に引き込まれています。

子どもたちは絵本が大好きです。今後も、子どもたちが安心して絵本を楽しめる環境作りを大切にしながら、友だちと一緒に絵本を楽しむ心地よさや、物語を通して広がる新しい世界への興味・関心を育む取り組みを継続していきます。



クラスでの読み聞かせ



移動図書館車での絵本借り



オオカミと七ひきのこやぎ人形劇

★ブックスタート事業



3 学校における子どもの読書活動の推進

(1) 学校の基本方針

小学校の低学年から年齢が上がるにつれて、子どもたちはテレビやゲーム、インターネット、スマートフォンなどの情報機器に触れる機会が増え、読書や活字に触れる時間が相対的に少なくなる傾向があります。このような状況から、読書離れや活字離れの進行が懸念されます。

読書を通じて得られる知識や経験は、子どもたちの言語能力や感性、思考力、創造力を育むとともに、自分を育てる力や、生活に役立つ力の向上にもつながります。そのため、子どもたちが読書の楽しさや価値を理解し、学校生活の中で継続的に読書を行う習慣を身につけられるよう、年齢や成長に合わせた支援を行っていくことが重要です。

(2) 具体的な取組

- ①朝読書や一斉読書の時間を設け、児童生徒が継続して本を読む習慣を身につけられるようにします。
- ②各学年で読書の目標冊数や読書時間を設定し、学年ごとに取組みを進めます。
- ③読書が少し難しい子どもにも配慮し、すべての子どもが読書しやすい環境を整えます。
- ④タブレットで読書記録をつけることにより、本を読みたい気持ちを高めます。
- ⑤図書委員会や図書委員が中心となり、読書推進のための活動を行います。
- ⑥読書週間や読書デーを設定し、家庭や地域と連携した読書活動を活性化します。
- ⑦学校図書館の蔵書やテーマ別コーナーを充実させ、多様な児童生徒の興味・関心に対応できる環境を整えます。
- ⑧教職員を対象とした読書活動研修を実施し、児童生徒の読書支援力や ICT 活用力の向上につなげます。
- ⑨移動図書館や団体貸出の活用など、図書館と連携し、読書活動を推進します。
- ⑩ボランティア団体と連携し、朝の読み聞かせの充実に努めます。

【取組事例 海部小学校】

海部小学校では、今年度読書記録のデジタル化を進め、児童が読んだ本のデータをタブレットに入力しています。児童の読んだ書名や総ページ数、ジャンルが記録されるので、学年ごとに毎学期の目標ページを設定することができます。学期末には、児童の読書活動の振り返りにも生かすことができ、読書活動の継続にもつながっています。毎週木曜日には、地域ボランティアの方々による読み聞かせや第1・3水曜日の移動図書「まつかぜ号」を多くの児童が活用しています。今年度は、図書委員会の児童が、1年生教室で絵本の読み聞かせをしたり、お薦めの本を朝会で全校児童に紹介したりしています。

このような取組を通して、本に触れる機会を十分に保障し、読書の楽しさを少しでも実感できるよう進めています。これからも読書の習慣化に向けて家庭との連携を図りながら、さらなる取組を進めていきます。



デジタル読書記録



図書委員による読み聞かせ



おすすめの本の紹介

【取組事例 海南小学校】

海南小学校の子供たちは、朝の活動に地域の「にもの会」の方々に、読み聞かせを行ってもらっています。子供たちは、わくわくしながら読んでいただく話に耳を傾けています。

校内に図書室もあるのですが、幅広いジャンルが取りそろえてある町立海南図書館が隣接しているため、各学年が月に2回程度、本を借りに行っています。

毎日行っている「読書タイム」になると図書館から借りた本や図書室の本から読みたい本を選び、自分の席で、静かに読書を楽しみます。10分間はあっという間ですが、物語や伝記など各々の世界に浸ります。また、「0の付く日は、家庭の日・読書の日」として進んで読書に親しめるよう、帰宅後も読書をする日に設定しています。10日、20日、30日になると図書委員会の子供が、放送で全校に呼びかけます。自宅にある本を読む子供もいれば、図書室で借りて帰る子供もいます。

委員会活動では、校内の図書室を利用する友達が季節や行事を感じられるようにと、図書室前に本の紹介コーナーを設けています。図書室を利用する友達に、「どんな本なのだろう」と、興味を持ってもらえるような本の置き方や飾り付けを工夫しながら本を紹介しています。これからも、子供たちが興味を持って、より多くの本と出合えるような取組を工夫しながら続けていきたいです。



本の紹介コーナー



「にもの会」による読み聞かせ

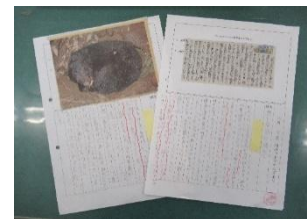


海南図書館で貸し出し

【取組事例 穴喰小学校】

穴喰小学校では、児童の読書習慣を育むため、毎日10分間の「毎日読書」を実施しています。移動図書館(まつかぜ号)で借りた本を個人ロッカーに保管でき、各学級にも図書が充実しており、すぐに本を手にとれる環境が整っています。さらに、2学期からは家庭読書カードを月1回配布し、家庭での読書活動を推進しています。家族と一緒に読書する機会をつくり、読書のきっかけを広げています。

図書委員会では、読み聞かせやキャラクターコンテスト、葉づくりなどを通して本への関心を高めています。特に1年生には、文字を習う前の段階での読み聞かせを重視しています。コンテストの優秀作品には賞状を授与し、作った葉を活用する児童も多く見られます。また、図書のリクエストを募集し、希望に応じて購入する取組みも行っています。



地域のボランティア団体「ミネルバの会」による読み聞かせも活用し、地域と連携した活動を展開しています。移動図書館(まつかぜ号)では、本のリクエストやスタッフとの会話を通じて、児童が主体的に読書に関わる姿が増えています。さらに、毎週配布される新聞を活用したり、「みんなで、たくさん、読書しよう」という目標をもち、学級で読書活動を盛り上げていたり、各学年で発達段階に応じた読書啓発を行っています。

【取組事例 宍喰中学校】

宍喰中学校では、以前より、生徒たちの活動として、学芸委員会が学力向上の呼びかけと図書室の運営、月に1回程度は学級文庫の入れ替えを行っています。図書室の運営活動としては、廃棄図書の選定や登録予定図書の選出と受け入れ処理(バーコード貼付、押印、カバー貼り)を行っています。先日の委員会活動ではポスターを作成し、読書の推進等と呼びかけました。

現在、宍喰中学校の図書室は、図書貸し出し簿に生徒個人が記入し、図書を借りていくという形をとっています。町立図書館職員の方々により蔵書のデータベース化は進められていましたが、貸し出しにはまだ反映され



ていない状況

です。そこで、現存する蔵書のデータベース化を進め、バーコード貸し出しを始められるように、町立図書館職員の方々には協力していただきながら、準備を進めています。

また、令和7年度から、海陽町立図書館の協力により、月に2回移動図書館「まつかぜ号」が来校していただき、多くの図書に触れる機会を広げています。今後も、生徒たちがより一層読書に親しめるように、読書感想文や読書感想画等を通して読書の機会を増やしたり、朝活動として読書週間を設定したりして、工夫した取組を続けていきたいと思ひます。



【取組事例 海陽中学校】

海陽中学校では、委員会活動で生徒がそれぞれ学級で読んでほしい本を選び、学級文庫を整えています。また、本をジャンル別に分けたり新刊コーナーを設けたりと、利用しやすい図書室環境作りに取り組んでいます。読書週間はテストが終わった後の1週間なので、年間5回程度あります。この読書週間の期間は朝の学習活動にしっかり読書をし、集中して本を読んでいます。そして、月に一度、第4木曜日の放課後は、地域の図書館と連携した移動図書館者「まつかぜ号」が来ていただき、生徒も本に触れる機会が増えています。学校図書室内に所蔵していない本も地域の図書館から借りることができるので、今まで以上にさまざまなジャンルの本から選ぶことができるようになりました。

また、国語の授業では、月に1~2回程度絵本の読み聞かせをすることで、生徒も小さいころに読んだ本を懐かしく感じたり新たな気持ちをもったりしながら、絵本の世界に入り真剣に聞いてくれています。学年が上がるほど、純粋な気持ちでこの時間を楽しんでいるように感じます。授業の中でおすすめの本をそれぞれ紹介したり、本のPOP作りをしたりと、これからも読書活動につながる時間をとり、豊かな心を育てていきます。



委員会活動



読書週間



まつかぜ号来校

4. 図書館における子どもの読書活動の推進

(1) 町立図書館の基本方針

町立図書館は「いつでも・どこでも・だれでも」をモットーに、所・園・学校・諸団体の連携の中で子どもたちの読書活動を推進する中心的な役割を果たします。第二次計画期間後半に注力したDXの成果を踏まえ、デジタルの力を最大限に利用した読書活動推進を目指します。

特に中学・高校生の不読率が高い現状に鑑み、今次推進計画においては、読書活動推進の「中高生重点化」および「児童書・YA重点化」に強力に取り組みます。YAとは英語のヤングアダルトのことで、子どもと大人の中間に位置する世代、そしてその世代を対象とする書籍のことで、5年間で深刻な蔵書不足を解消していきます。

(2) 具体的な取組

従来の推進計画で取り組んできた、移動図書館による貸出、小学校への休み時間の貸出、学校の学習支援、特設コーナー・展示コーナーの設置は高い効果を挙げており、今後も継続していきます。また、次の事業について、第二次推進計画の課題をふまえ、それぞれ新たな取組目標を掲げます。

① 学校図書館への支援とネットワークづくり(課題(1))に対応

・学校図書館については、図書担当の教諭先生がたの尽力により、学校側の図書利用態勢は整ってきています。一方、蔵書管理プログラムが旧式であり、そのためにパソコンを更新できない、かつ各校それぞれで異なる方式で蔵書管理をせざるを得ない、図書館側の対応人員不足など、進めたくても進められない状況に陥っています。

そこで、次項のシステム更新に合わせて、図書館を中心とした学校図書館全体の統一的システム化を実施し、図書館職員と学校職員の誰もが必要に応じて迅速に問題に対応できるシステム組織を構築することが急務です。図書館の次回のシステム更新に合わせて、この推進計画の期間内にネットワークを構築することが望まれます。

② YA(ヤングアダルト)図書の充実(課題(2))に対応

・YA図書は、不読率が顕著な中高生世代が対象年齢となる図書です。第二次計画において移動図書館車の中学校巡回が実現し、移動図書館を含めた図書館のYA蔵書を充実させる必要に迫られています。そのために、絵本と児童書の整理と効率的な配置、図書購入費配分の再検討を徹底的におこない、子ども全世代に魅力的な図書館の構成を目指します。

また、小学校と中学校に巡回している移動図書館と各学校図書館の利用を促進し読書活動を推進するため、町内小中学校を対象に「図書館だより」を発行し、学校図書館と連携して楽しい記事を掲載して読書への興味を喚起します。

さらに、海部高等学校を対象に「図書館だより」を発行し、コスパ・タイパを重視し日頃多忙でもある高校生に、短くても心に残り人生の指針ともなるような図書の紹介を実施して、高校生の読書率向上を促進します。

③三館学協働事業のリニューアル(課題(3)に対応)

・三館学協働事業としては、植物採集教室、植物・昆虫名づけの会、工作教室、大人のためのおはなし会、郷土史学習会等を実施していますが、近年参加者が減少している事業があります。毎年同一の内容となっている事業については、内容および名称のリニューアルを実施し、かつ今の子どもたちが興味を強く持っている分野(鉱物、コケなど)を取り入れて、事業を有効に活性化します。

③ ブックスタートの拡充(課題(4)に対応)

・ブックスタート事業は平成 27 年スタート以来、乳幼児への読書に親しむ効果も高く、保護者の関心や評価も高く継続しています。事業継続は必須ですが、今後改善すべき小中学生への効果も高いのではないかと推測されます。重点目標である中学生を対象に 1 冊の「中学生ブックスタート」を試行し、効果が認められれば小学生あるいは中学卒業生にも実施を検討していきます。

また、年齢に合った書籍を紹介するために、教員をはじめとした大人が推薦する本を掲載した「読書への誘い」海陽町版をアンケートにより集計し、小学生・中学生・高校生向けに編集します。

④ おはなし会の実施(課題(4)に対応)

・乳幼児から小学生を対象としたおはなし会は好評で、今後も継続します。また、新たに「英語のおはなし会」を実施し、子どもから大人までを対象として英語の歌や物語、詩の美しさに触れる機会を設け、子どもの英語学習促進をねらいます。

また将来的には、町内在住の外国語話者に広く歌や朗読をお願いし、いろいろな言語文化に触れる多文化学習と外国出身町民の理解親睦を図ります。

⑤ ハード面の環境整備(課題(5)に対応)

・図書に関する教育行政の中心に位置する図書館には、不具合や不正アクセスを寄せ付けない盤石の図書管理システムが必要不可欠です。通常、5 年に一度のシステム更新によって、長足の進歩を遂げる情報通信技術や全国の図書館ネットワークに追いつくことが可能となります。

特に子どもの読書活動推進にあたって、学校図書館とのシステム統一が大きな力となることは明らかです。今次計画期間中に迎える次回システム更新には、(1)通常運営時にトラブルを起さず、(2)緊急時には即時に対応し、(3)学校図書館を含めた包括的なシステム構築を可能とする、抜本的な更新を目指さなければ、現在直面している多くの問題を解決できません。

築 40 年を超える海南図書館の建物も老朽化が著しいですが、子どもたちのために安全管理を徹底して施設を維持しつつ、新システム導入に優先して取り組んでいきます。

⑥ ICT活用スキルを向上する講座開催(課題(5)に対応)

近年目覚ましい発展を遂げている生成AIは、ICT機器活用の利便性の飛躍的向上をもたらすと同時に、ネット上でのさまざまな犯罪や問題の危険性を増すことも予想されます。

子どもたちに健全なICT活用を促すために、児童生徒や教職員を対象としたAI教室を開催し、最新の技術に関する情報を提供してICT活用スキル向上を目指す必要があります。

合わせて、デジタルえほん室を活用して、子どもたちにウェブ上のアプリケーションの品質について標準を示し、低劣なコンテンツに興味を向かないよう、デジタルえほんアワード等の機関と協働して情報提供を継続します。

第4章 家庭・学校・地域の連携による子どもの読書活動の推進

1 家庭・学校・地域の連携による読書活動の推進

家庭・学校・地域が連携し、子どもたちが読書を楽しみ、継続的に読書習慣を身につけられる環境を整備します。家庭では読み聞かせや家読を通じて子どもの関心を引き出し、学校では読書の時間や指導を通じて読む力や表現力を育み、地域では図書館や子ども館、ボランティア活動を活用して多様な読書機会を提供します。

これらが連携することにより、子どもたちが主体的に読書に親しむ文化の醸成を図り、自己形成や思考力・判断力の向上へとつなげていきます。また、図書館・博物館・文化館が実施する各種イベントや土曜学習等を活用し、子どもたちが安心して楽しく過ごせる場を提供するとともに、郷土の歴史や文化、地域の自然に触れる機会の充実を図ります。

さらに、これらの活動を学校教育における社会科や理科、総合的な学習の時間と関連づけることで、学びの広がりや深まりを促進します。あわせて、各館が所蔵する地域資料や歴史資料、図鑑等を積極的に活用できる環境を整備し、実体験と読書活動とを結びつけた、より効果的で探究的な学習の推進を目指します。

2 具体的な取組

① 家庭での読書支援

- ・保護者に地域の歴史に関するおすすめ図書や読み聞かせ方法を紹介し、家庭での読書環境づくりを支援します
- ・図書館や博物館などの企画展に関連する図書を紹介し、親子で地域の歴史や文化に触れる機会を増やします。
- ・家読や学校が設定する「読書の日」などの取組を通して、家庭で本に触れる時間の確保を促進し、日常生活の中に自然に読書を取り入れる習慣づくりを進めます。

② 学校での読書環境の整備

- ・町立図書館と学校図書館の連携や情報交換を強化し、学校図書館の蔵書やテーマ別のコーナーを充実させ、児童生徒の多様な興味に対応できる環境を整えます。
- ・図書委員会による町立図書館見学や職場体験、職員と図書館の連絡会議や研修を通じて読書活動の推進力を高めます。
- ・タブレットや電子書籍、図書検索システムなどICTを活用し、児童生徒が効率的かつ多様に読書できる環境を整備します。また図書館を通じて、阿南市電子図書館の利用を小中学校に案内します。
- ・学校図書館において、図書館や博物館の展示やイベントに関連する書籍を特設コーナーとして整備し、教科学習や探究活動と連動した読書活動の充実を図ります。

③ 地域との連携強化

・図書館や子ども館と連携し、移動図書館車や団体貸し出しの活用で学校外の読書機会を広げます。子ども館の活動に、デジタルえほん室の利用を取り入れ、子どもたちに質の高いデジタルコンテンツを紹介します。

・地域資源を活用し、ボランティア団体によるおはなし会や朝の読み聞かせなどの読書イベントを実施します。

・読書週間や読書デーを設定し、家庭・学校・地域が一体となって読書活動を推進することで、継続的な読書習慣の形成を図ります。

・図書館、博物館、文化館の企画展を活用し、地域の自然や歴史、文化を学ぶ校外学習や体験活動を実施します。実物資料や展示、資料・図鑑を活用しながら、読書活動と結びつけた学びを推進し、地域資料への理解をより一層深める学習環境を整えます。

④ 成果の確認と改善

・読書記録の活用を通して、児童生徒一人一人の読書状況や興味・関心、読書意欲の変化を継続的に把握し、指導や支援に生かします。

・家庭・学校・地域の取組状況を定期的に確認・検証し、その成果や課題を踏まえて、必要に応じて支援内容や環境整備の見直し・改善を行い、より効果的な読書活動の推進につなげます。



参考資料:読書活動についてのアンケート調査結果

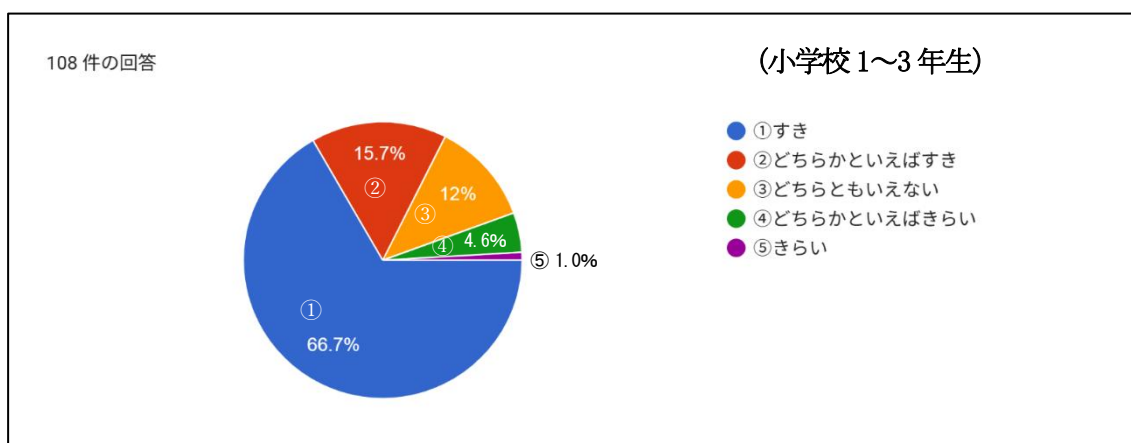
町内にある小学校3校、中学校2校、高等学校1校の全ての児童・生徒、保育所2園、こども園1園の全ての保護者へ令和7年9月末に web アンケートを実施しました。児童・生徒用と保護者用でアンケートの質問内容は異なります。

	対象数(人)	回答数(人)	回収率(%)
保護者	125	56	44.8
小学校	233	218	93.5
中学校	142	134	94.4
高校	272	250	91.9

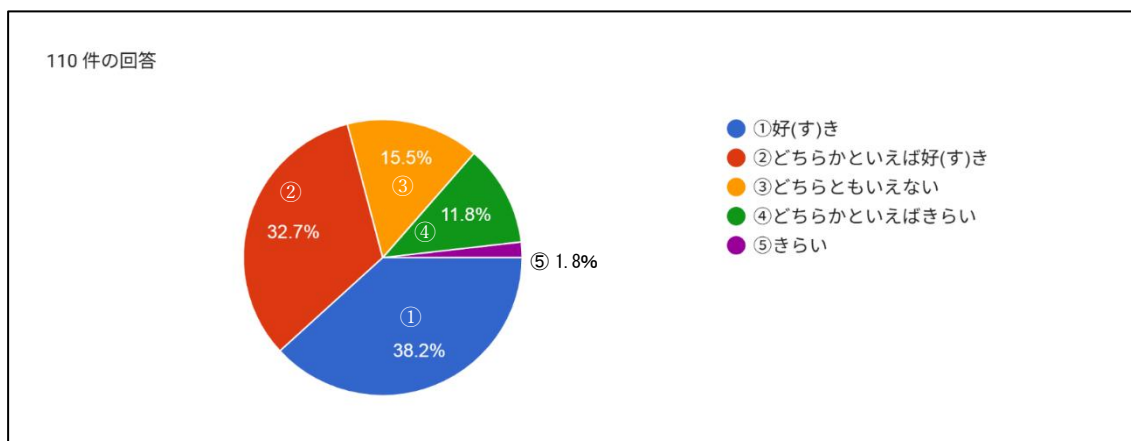
小学校・中学校・高校

質問1:本を読むことが好きですか。

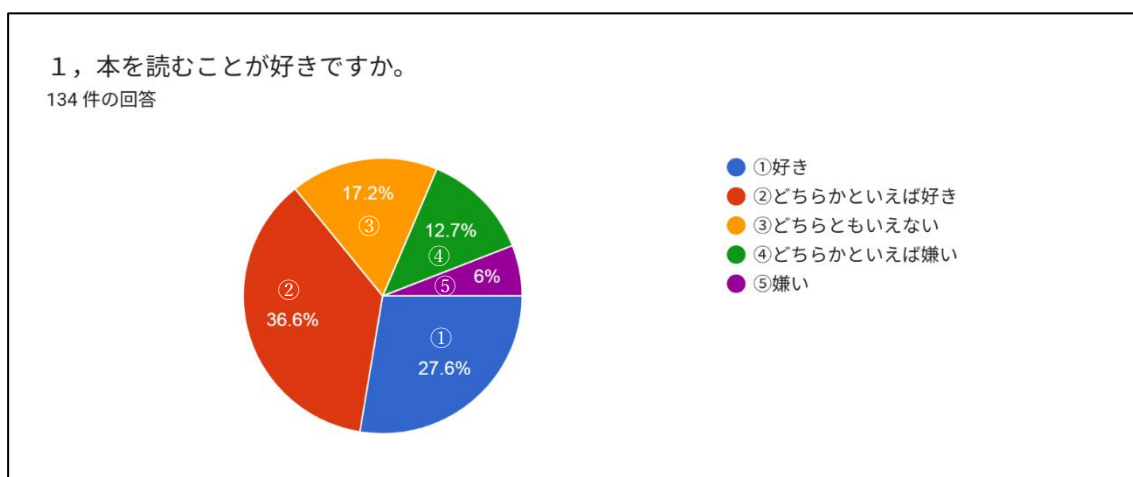
(小学校 1～3 年生)



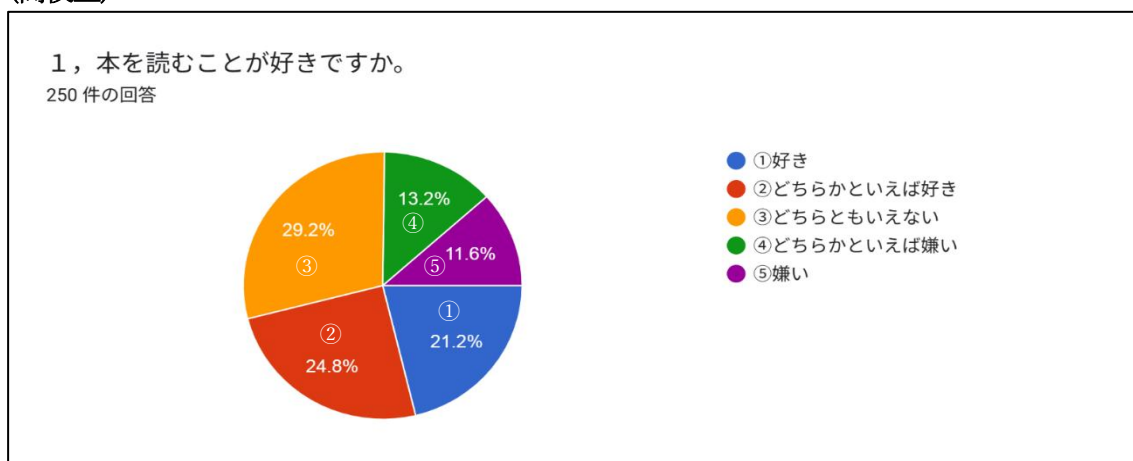
(小学校 4～6 年生)



(中学生)



(高校生)



全国的な傾向では、小学生で約 8.5%、中学生で約 23%、高校生で約 48%が「月に 1 冊も読まない」とされ、年齢が上がるにつれて読書をしない割合が増える傾向が見られます。これは「読書離れ」の現状を示しています。

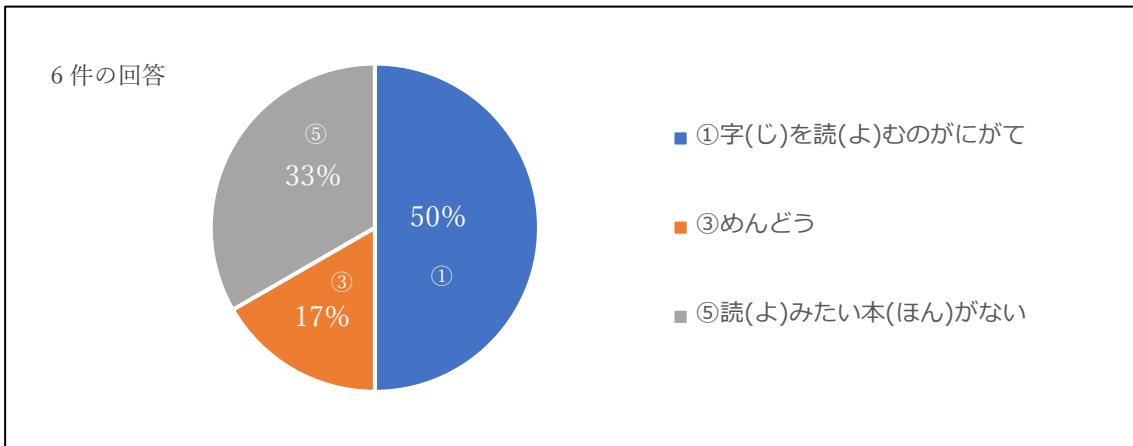
一方、今回のアンケートでは、小学校 82.4%、中学校 64.2%、高校 46%が「本を読むのが好き／どちらかといえば好き」と回答しており、全国的傾向に比べて高い割合です。

このことから、全国的に読書量が減少する中でも、町の子どもや生徒には一定の読書関心が残り、読書を文化として楽しむ意識が根付いていることがうかがえます。

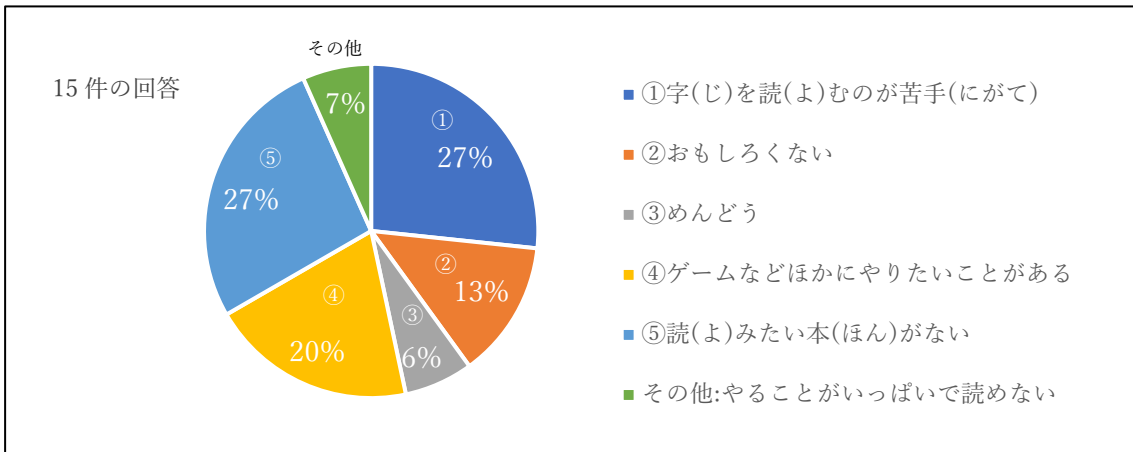
学年が上がるにつれて「好き／どちらかといえば好き」の割合は減少しますが、半数近くの高校生が読書を好むと答えており、学年が上がっても読書の価値や楽しさを感じる生徒が一定数いることが示されています。今後の読書支援では、この関心を活かす取り組みが重要です。

質問2:読むのが「どちらかといえばきれい」「きれい」という人は、なぜですか

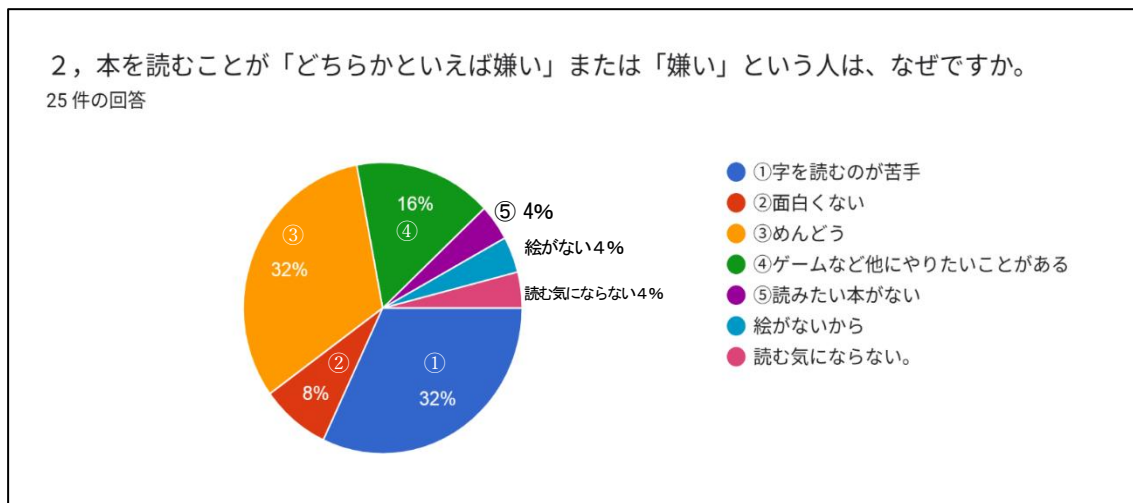
(小学校1～3年生)



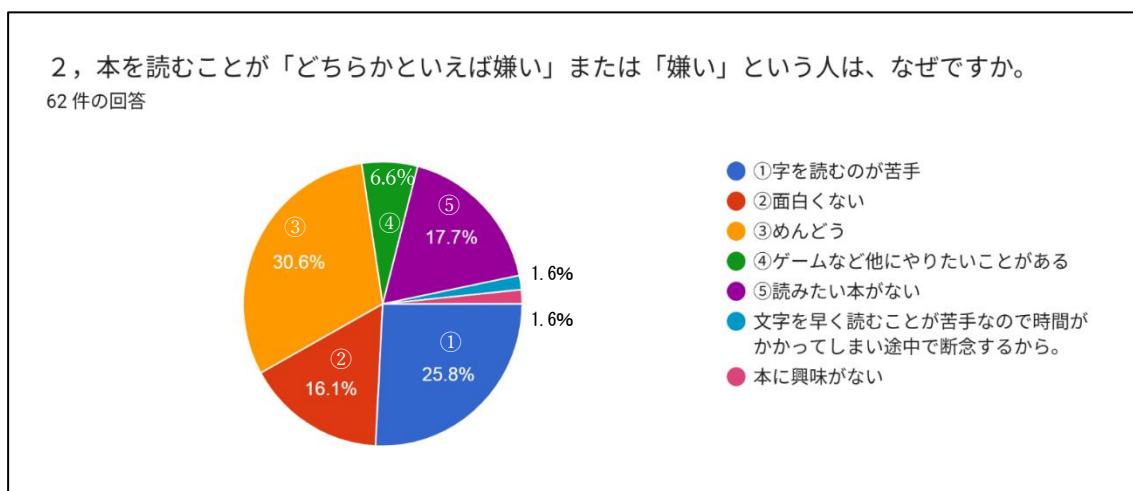
(小学校4～6年生)



(中学生)



(高校生)

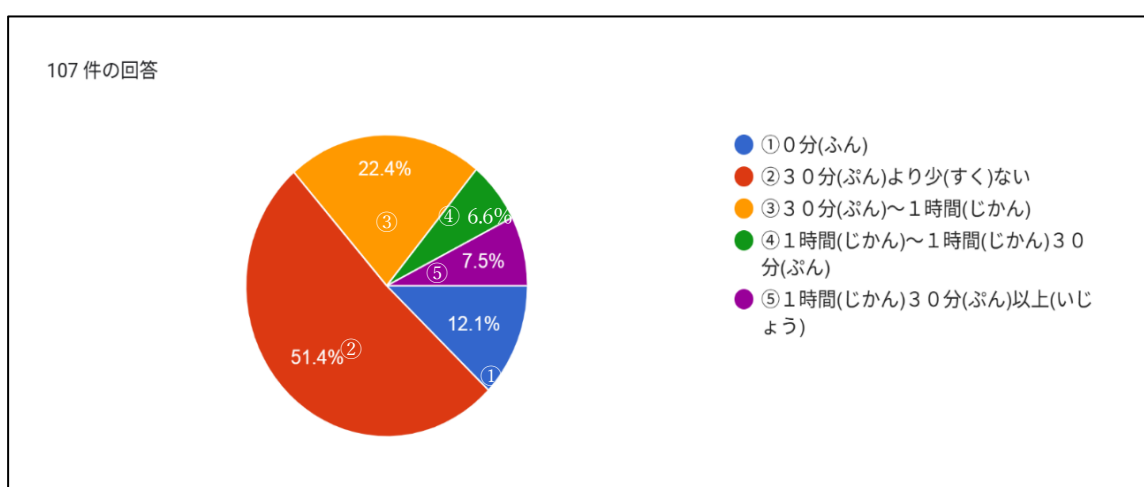


問1で「どちらかといえばきれい」「きれい」を選択した児童・生徒に、理由を尋ねたところ、小学校1～3年生から高校生までの各学年で共通して「字を読むのが苦手」と答える人が多く見られました。低学年では、文字や文章を読むこと自体に苦手意識を持つ子どもが目立ち、読むことへのハードルの高さが「きれい」の感情につながっていると考えられます。

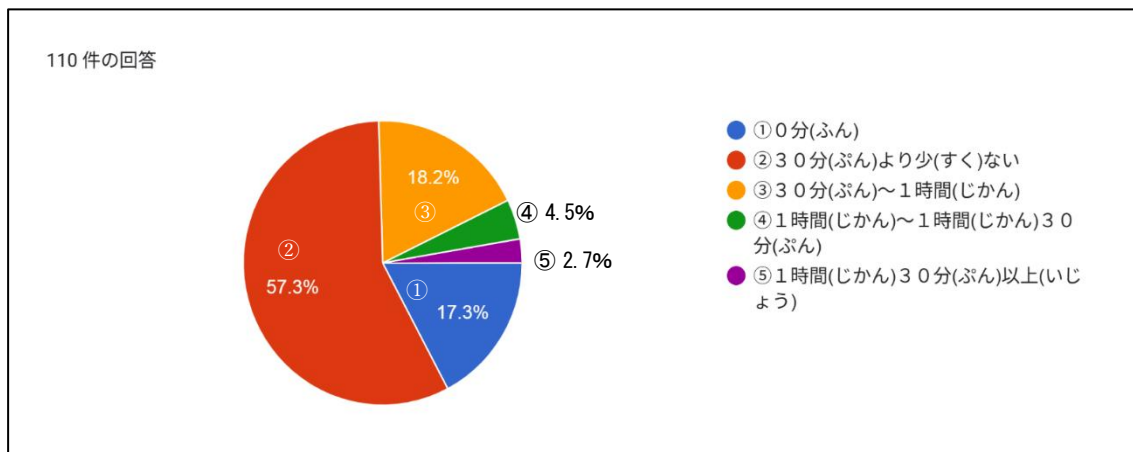
一方で、高学年や高校生になると、読むこと自体が嫌いという理由よりも「めんどろ」「時間がかかる」といった実用的な理由が増える傾向が見られます。これは、学年が上がるにつれて文字を読む力は一定程度身についてくるものの、読書や文章に向き合う時間の確保や効率性を重視する意識が高まるためと考えられます。

質問3:1日のうちでどのくらいの時間、本を読んだり読んでもらったりしますか。

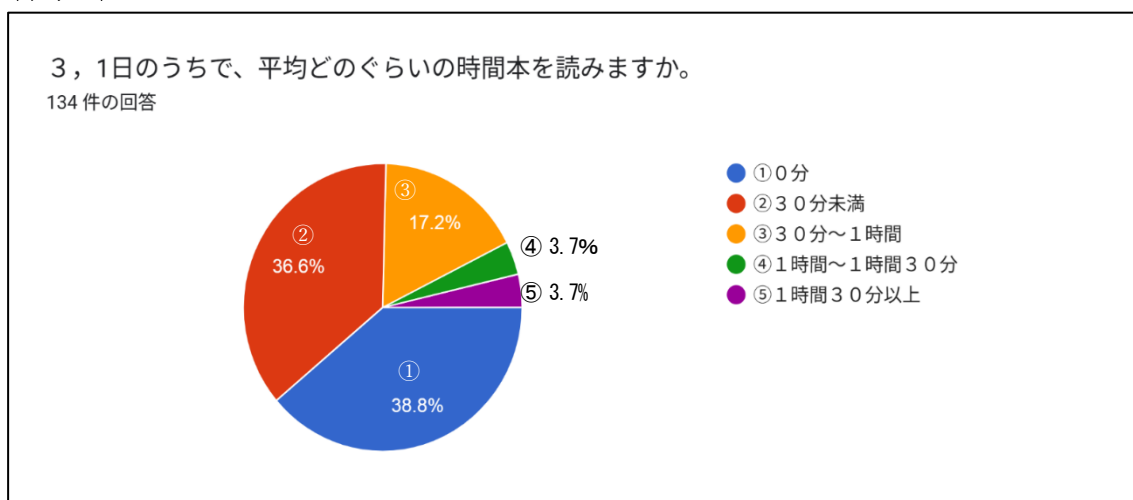
(小学校1～3年生)



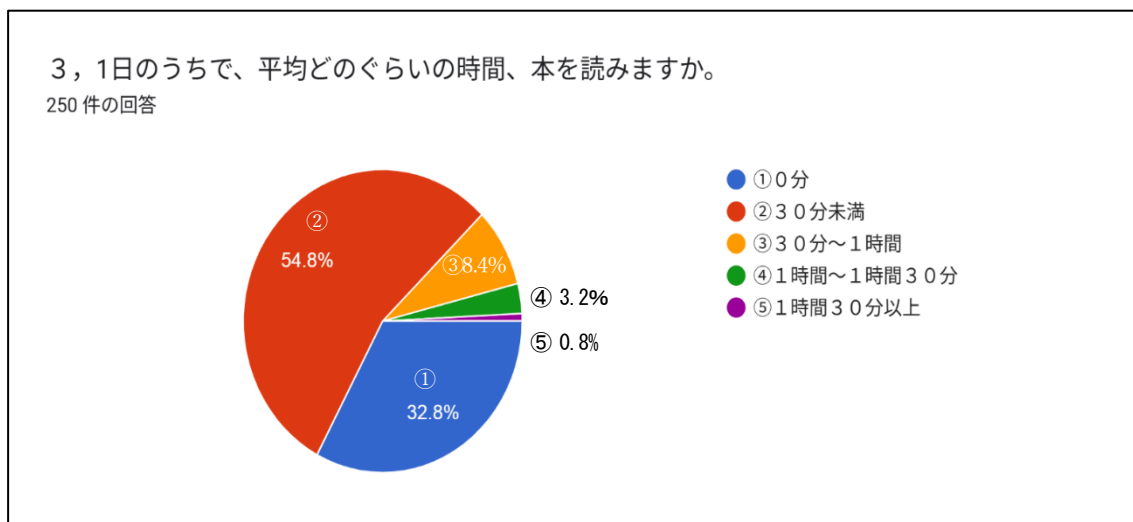
(小学校4～6年生)



(中学生)



(高校生)



質問3では、1日の読書時間について尋ねました。その結果、学年が上がるにつれて「0分」と答える人の割合が増える傾向が見られました。

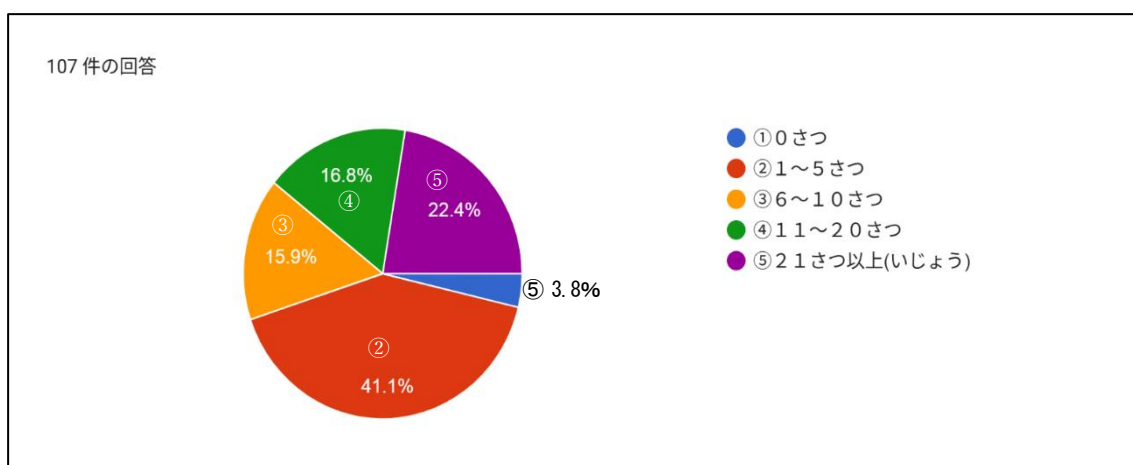
小学校低学年では、家庭での読み聞かせや授業での読書時間が多く、比較的読書に触れる機会が確保されています。この時期は文字の読み書きや物語に親しむ体験が多く、読書の楽しさを感じやすい段階といえます。

しかし、小学校高学年になると、自分で読む力は身についてくるものの、宿題や習い事、部活動などで自由に読書する時間が減ってきます。中学生・高校生になると、さらに学習課題や部活動、塾などの影響で読書時間を確保するのが難しくなり、「0分」と答える生徒が増える傾向が強まります。

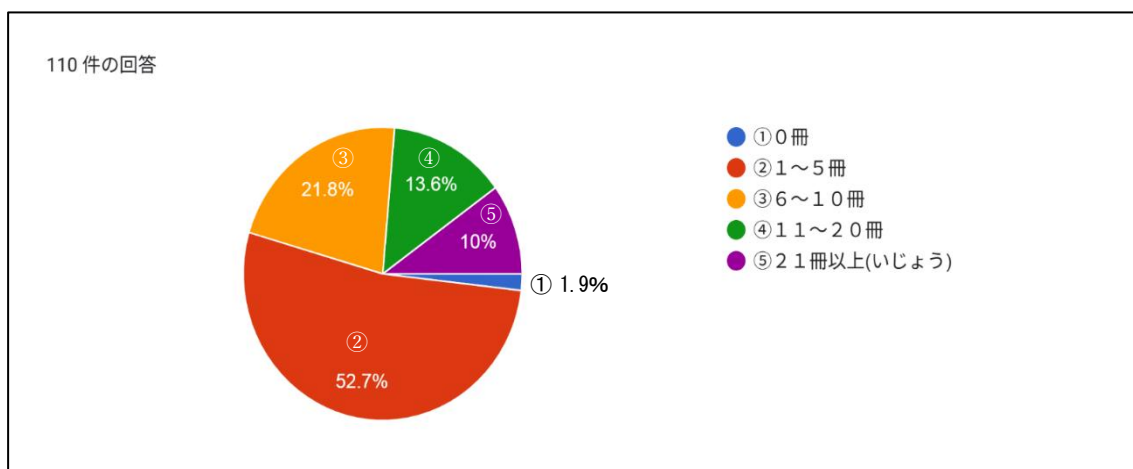
この結果から、学年が上がるにつれて生活の中で読書の時間を意識的に作ることが難しくなることがうかがえます。そのため、短時間でも読書を楽しむ工夫や、学習や日常生活と両立できる読書習慣の支援が重要であると考えられます。

質問4:1か月のうち何冊ぐらい本を読みますか。

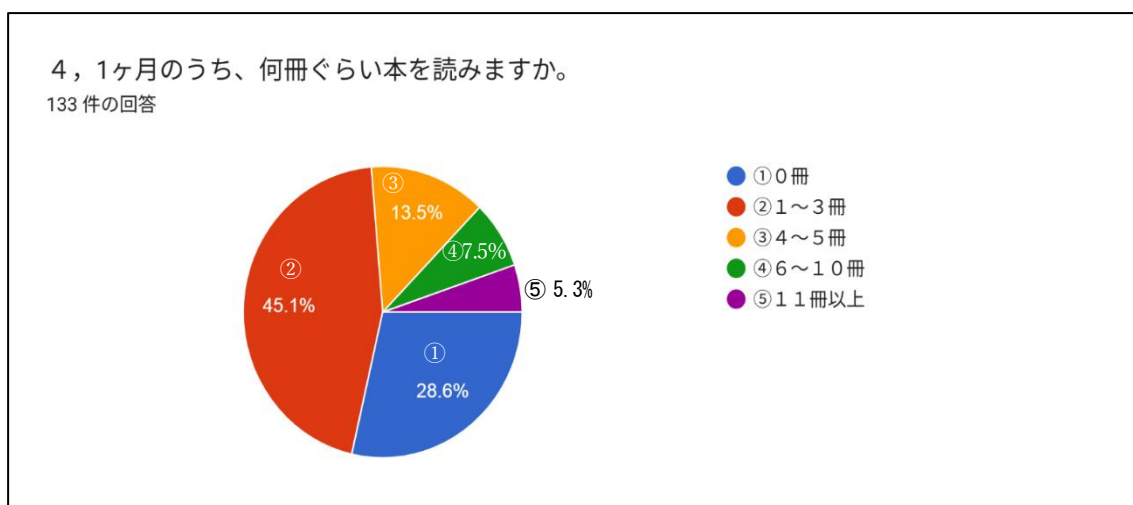
(小学校1～3年生)



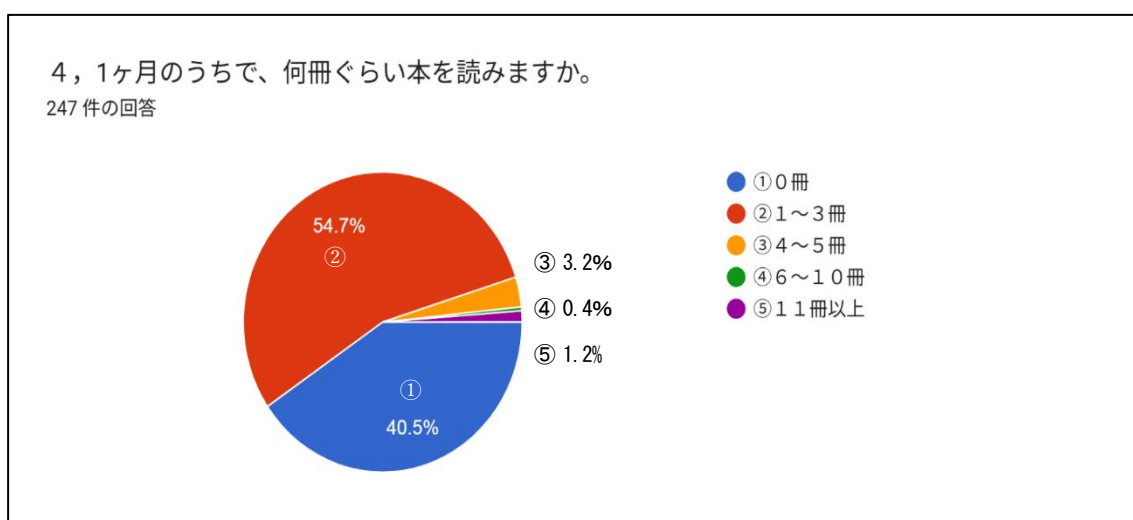
(小学校4～6年生)



(中学生)



(高校生)

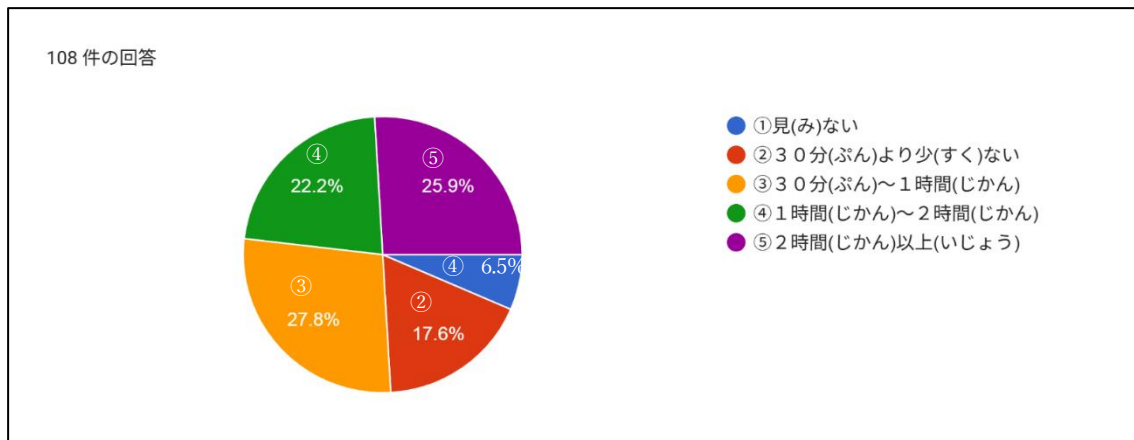


質問4の結果から、月に読む本の冊数には学年が上がるにつれて明確な変化が見られました。小学校1~3年生では「1~5冊」と回答する児童が最も多く、短めの本を中心に比較的多くの読書をしていることがうかがえます。4~6年生でも同様の傾向が続き、文章量が増える学年であるにもかかわらず、10冊以上読む児童も一定数見られるなど、読書が習慣として定着している姿が確認できます。

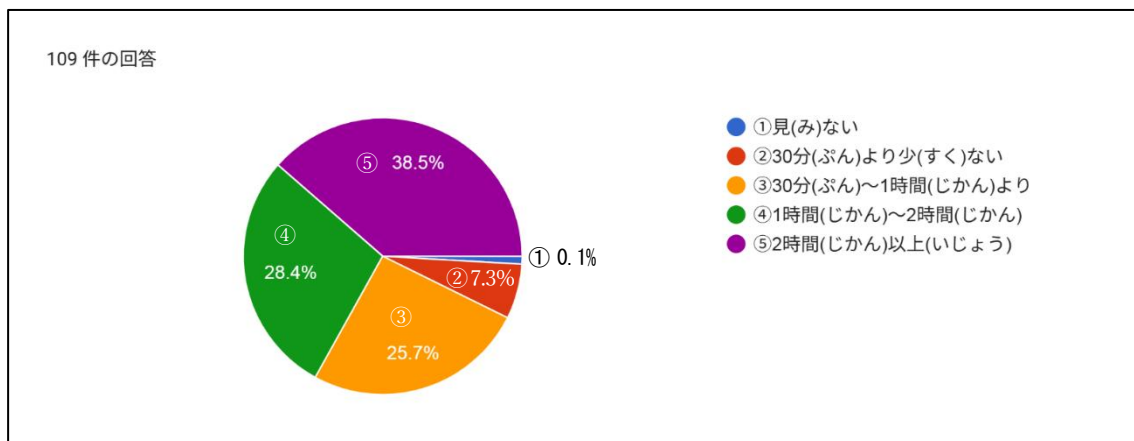
一方、中学生になると「0冊」と回答する割合が増え、読書量にばらつきが生じ始めます。最も多いのは「1~3冊」であり、部活動や学習時間が増える中でも、週に1冊程度のペースで読書を行っている生徒が中心です。高校生ではこの傾向がさらに進み、「0冊」の割合が増えるとともに、5冊を超えて読む生徒はごく少数となり、読書冊数の低下がより顕著になります。

質問 5: テレビ・スマホ・ゲームなど、動画の画面を見る時間は 1 日にどれくらいですか。

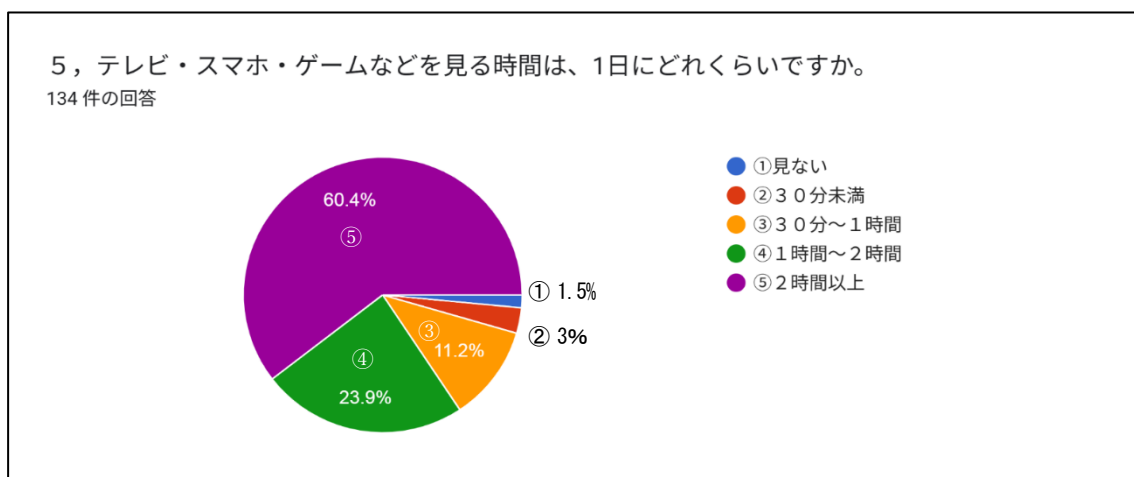
(小学校 1～3 年生)



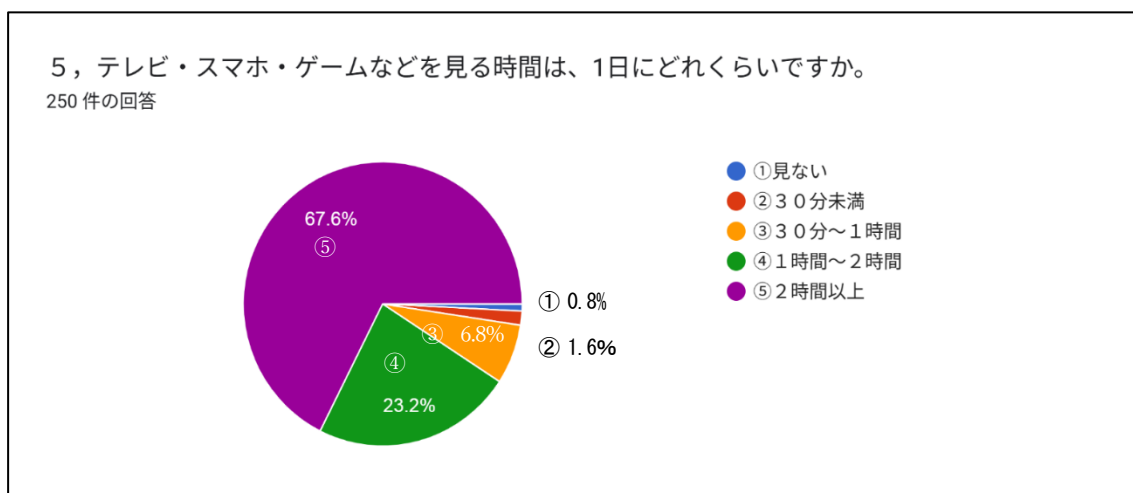
(小学校 4～6 年生)



(中学生)



(高校生)

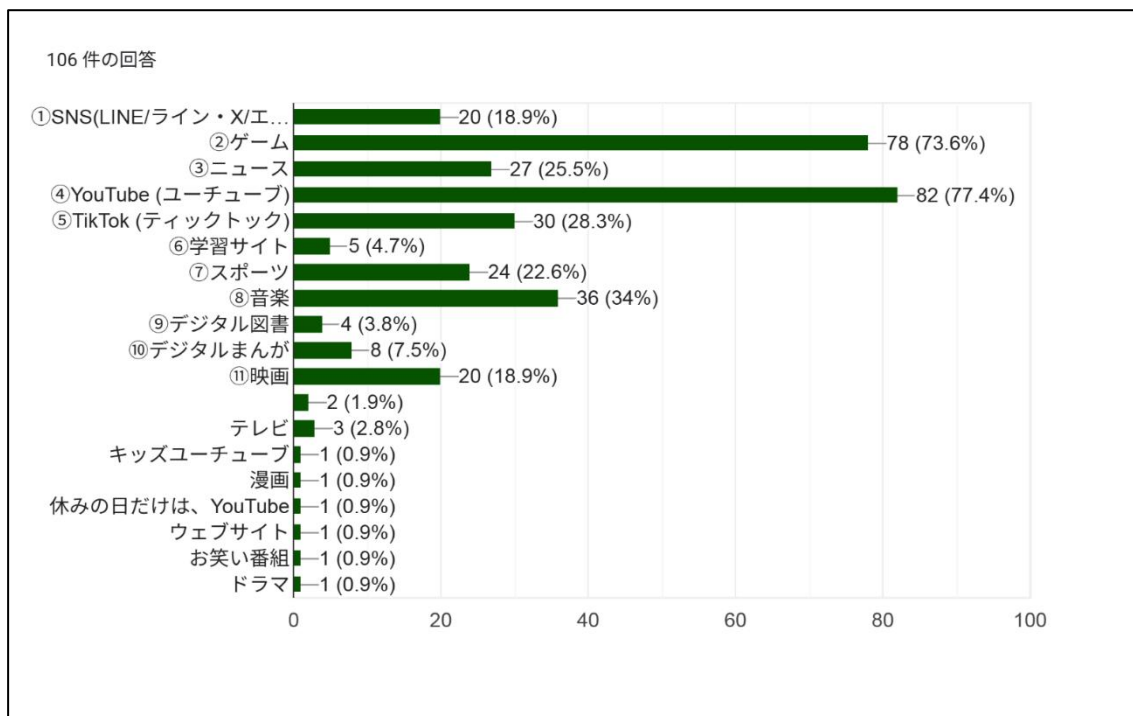


テレビ・スマホ・ゲームなどの動画視聴時間については、小学生から高校生まで、いずれの学年でも「1時間以上」と回答する割合が高く、特に中学生・高校生で長時間視聴の傾向がみられました。

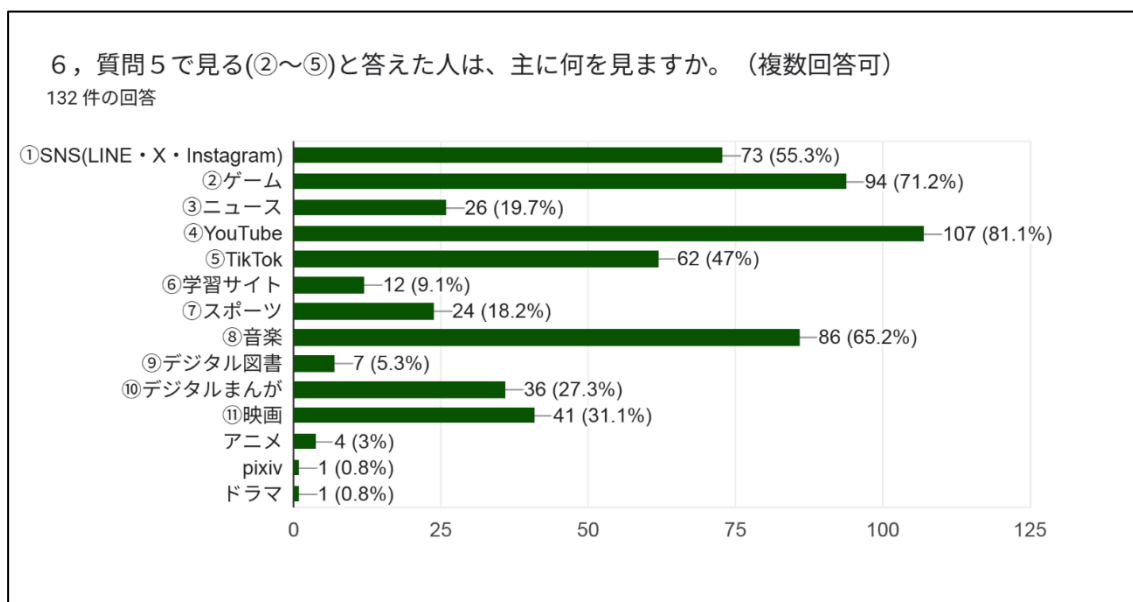
動画視聴が直接読書時間の減少につながるとは言いきれませんが、結果として読書に充てられる時間が圧迫される可能性があります。

質問 6, 質問 5 で②～⑤を選んだ人は、主に何をみますか。(複数回答可)

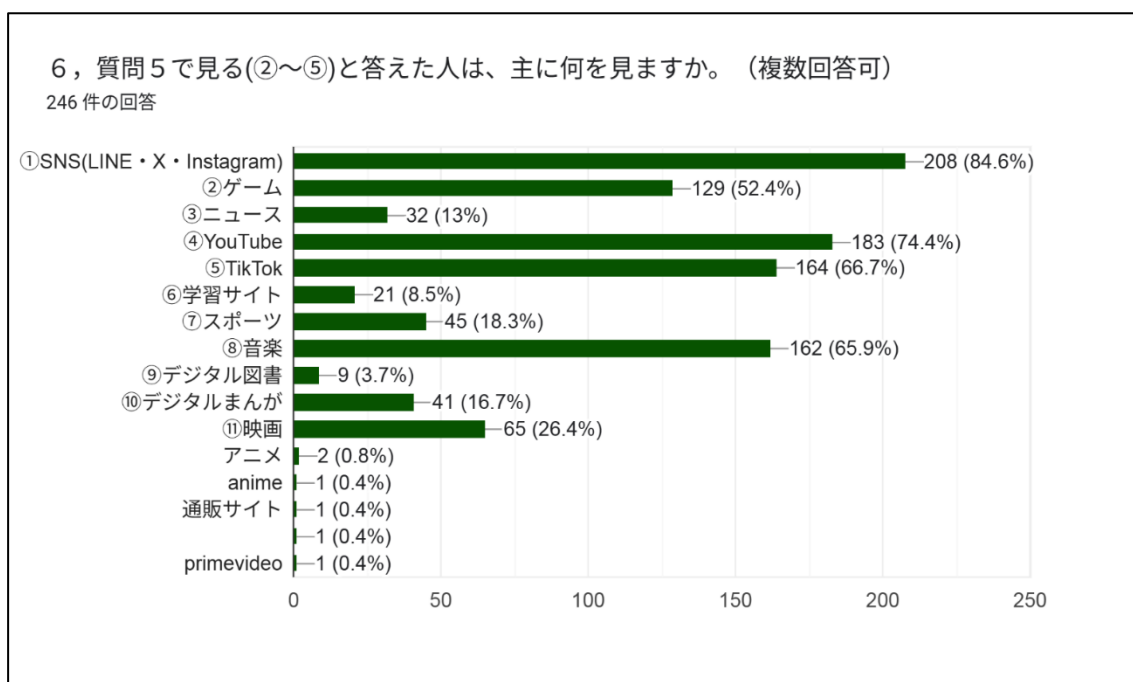
(小学校 4～6 年生)



(中学生)



(高校生)



質問6では、動画視聴時間が1時間以上と回答した児童・生徒が、普段どのようなコンテンツを見ているかを尋ねました。小学校4~6年生では、アニメやゲーム実況、短い動画など、身近で気軽に楽しめる内容が多く選ばれています。

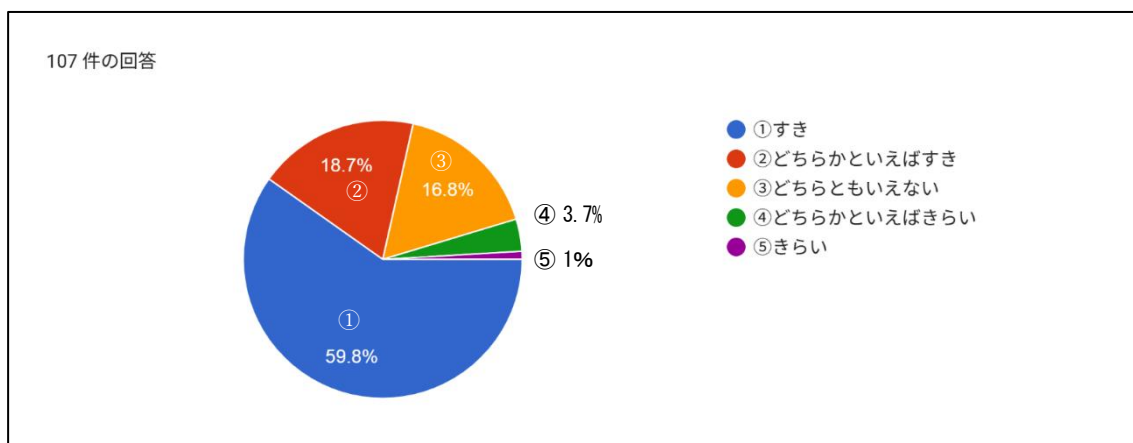
中学生になると、娯楽系に加えて音楽・スポーツ・勉強関連の動画を選ぶ割合が増え、興味の幅が広がる様子が見られます。また、SNS で流れてくる短い動画を中心に視聴している生徒も多くみられます。

高校生では、エンタメ系に加えニュースや解説動画、趣味実用的な動画など、より個人の関心に合った多様なコンテンツが選択される傾向があります。一方で、SNS や動画アプリを継続的に使用する時間が長くなることも示されており、生活時間の管理がますます重要となります。

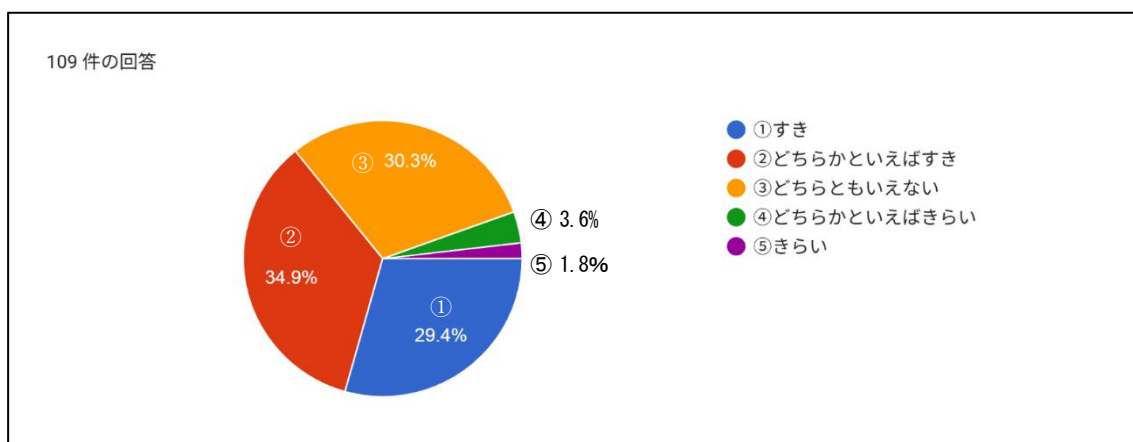
このように、学年が上がるにつれて視聴される動画の種類は多様化し、情報収集や娯楽として動画が日常的に利用されている様子が明確に表れています。

小学校のみ:本を読んでもらうのは好きですか

(小学校 1～3 年生)



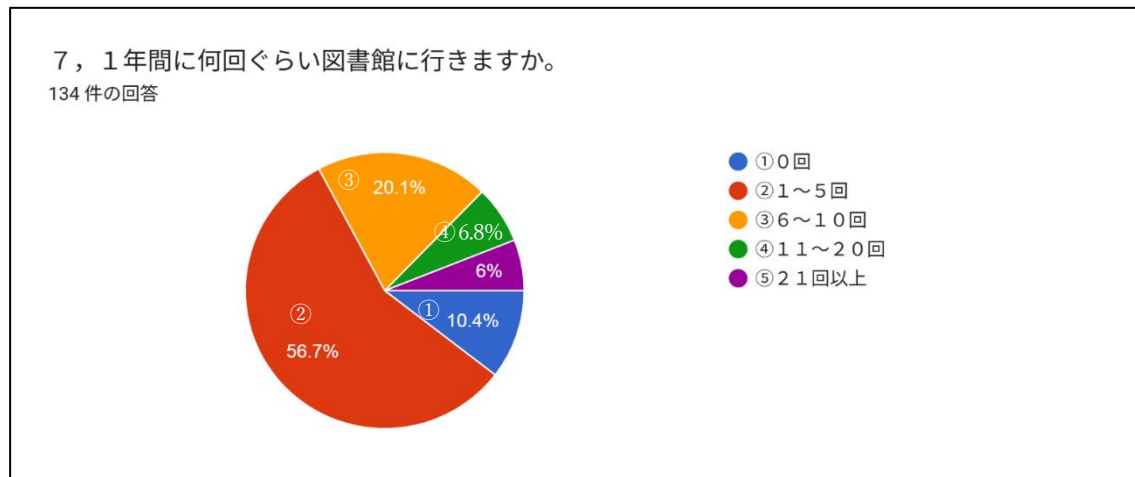
(小学校 4～6 年生)



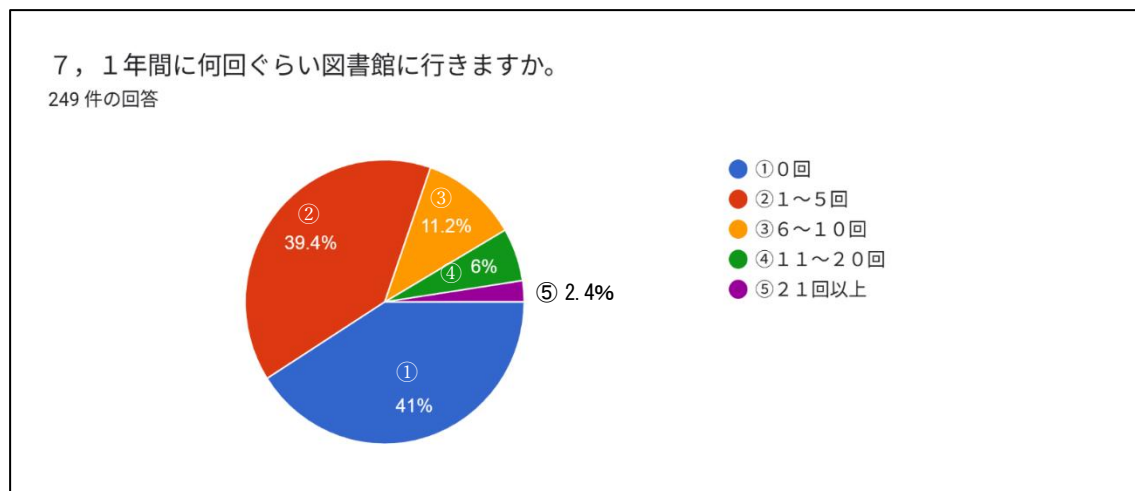
小学校のみに聞きました。読み聞かせを「好き」「どちらかといえば好き」と答えた児童は 71%でした。字を読むことが苦手でも読み聞かせは好きと答えている児童もいました。

中学校・高校のみ:1年間に何回ぐらい図書館に行きますか。

(中学生)



(高校生)

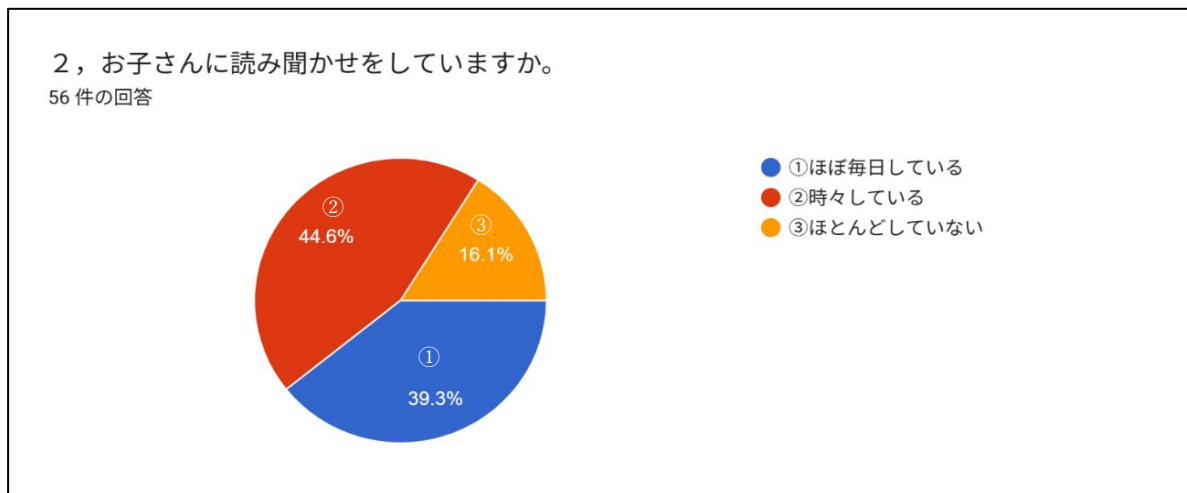


中学生・高校生を対象に図書館の利用状況を尋ねたところ、中学校では89.6%、高校では59%の生徒が「年に1回以上図書館を利用している」と回答しました。多忙な学校生活や部活動の中でも、4分の3以上の生徒が図書館を訪れており、学習や調べもの、読書など、目的に応じて図書館が一定程度活用されている様子がうかがえます。



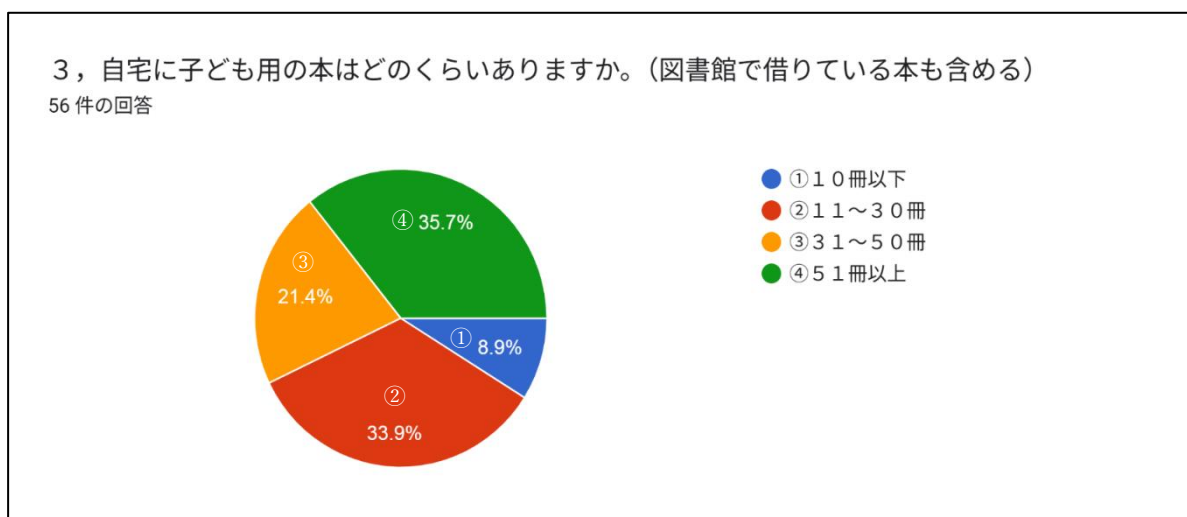
保護者(※1.の質問については子どもの年齢を聞くもののため省略しています。)

質問2. お子さんに読み聞かせをしていますか。



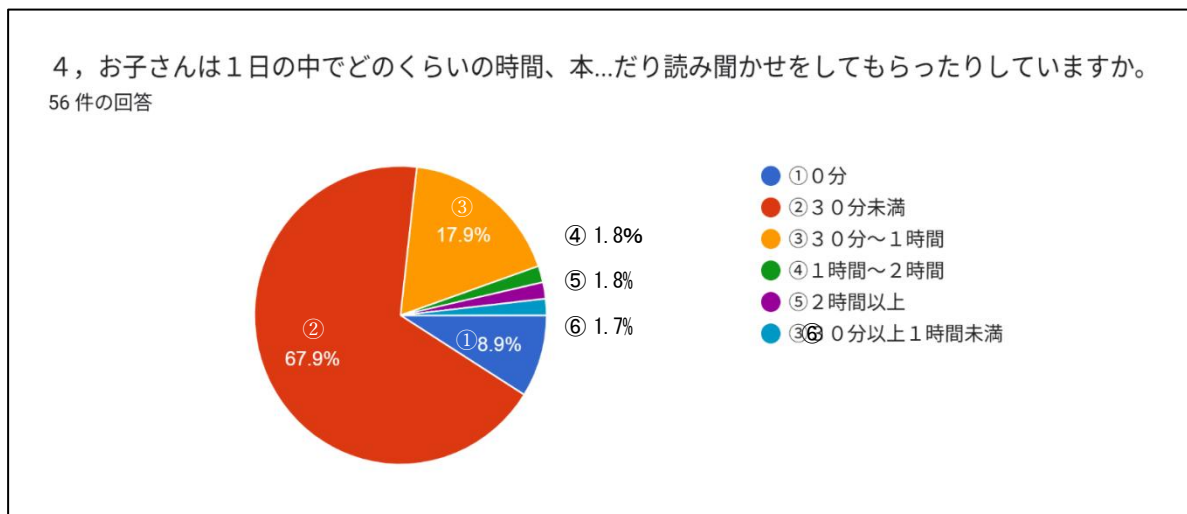
ほとんどの保護者が子どもへの読み聞かせをしています。1人で本を読むことのできない子どもにとって読み聞かせは物語に触れる貴重な機会です。

質問3. 自宅に子どもの本はどのくらいありますか。(図書館で借りている本も含む。)



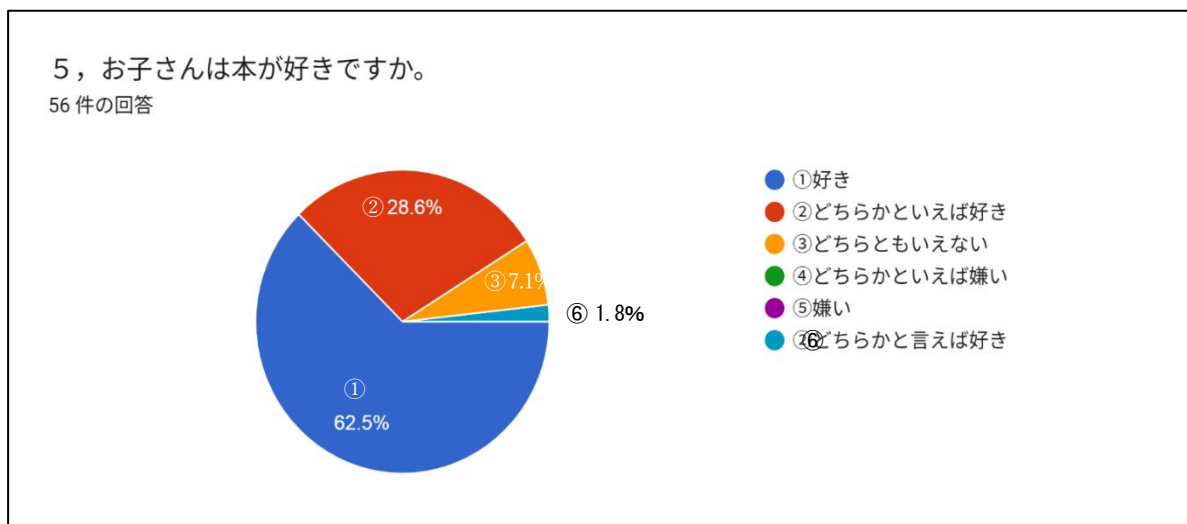
自宅にある子どもの本の冊数には大きな個人差が見られました。家庭のスペースや購入頻度の違いにより、本をどの程度そろえられるかは家庭ごとに異なりますが、冊数が少ない家庭であっても読書環境を十分に確保できるよう、図書館が多様な本に触れる場として補完的な役割を果たすことが重要です。図書館の利用を促進し、必要ときに気軽に本を手にとれる環境を整えることで、児童の読書機会をより広げていくことができると考えられます。

質問4. お子さんは1日のうちでどのくらいの時間読み聞かせをしてもらったり、自分で読んだりしますか。



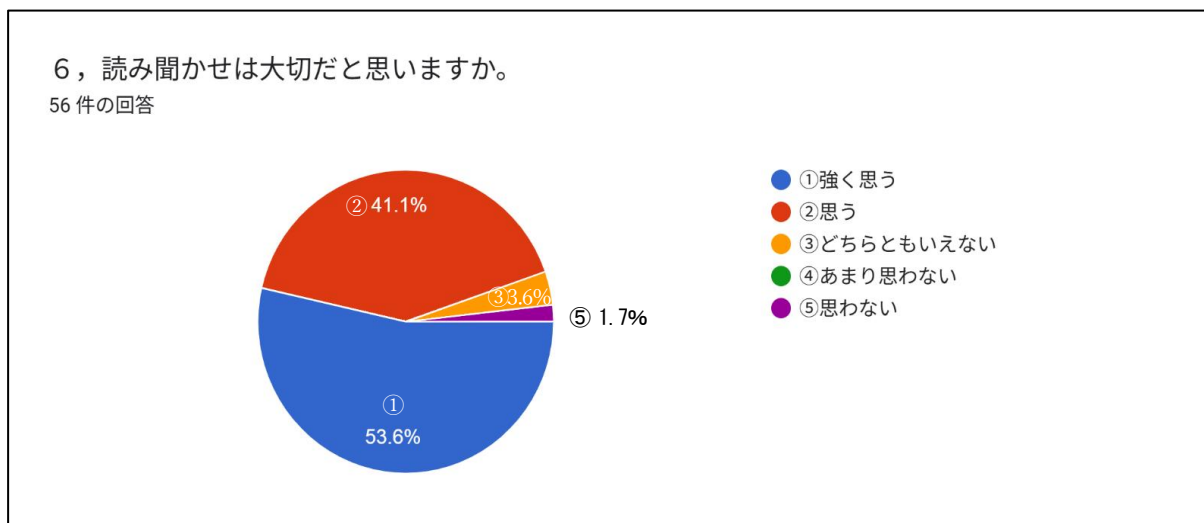
読み聞かせや自分で本を読む時間には家庭によって差がみられました。短時間でも毎日継続して読書に触れている家庭がある一方で、読書の時間を十分に確保できていないケースも見受けられます。生活リズムや家庭環境によって読書時間の確保が難しいこともありますが、1日数分でも本に触れる習慣は、子どもの読書への興味や語彙力の育成に大きく寄与します。日常の中で無理のない範囲で読書の機会を設けていくことが、継続した読書習慣づくりにつながると考えられます。

質問5. お子さんは本が好きですか。



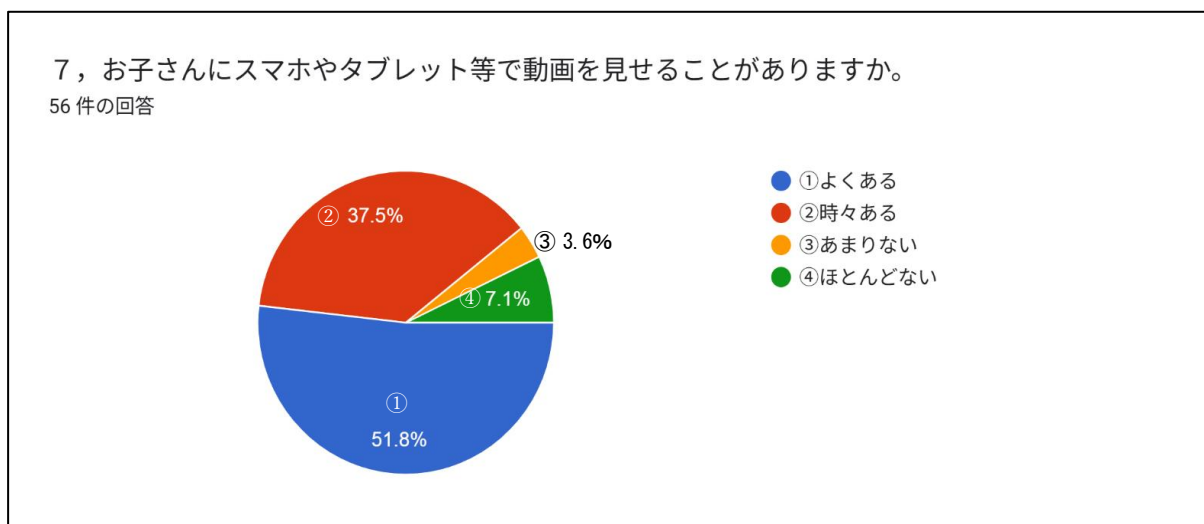
多くの幼児は本に興味を示しており、「本が好き／どちらかといえば本が好き」と回答した子どもが多いことがわかりました。一方で、まだ本にあまり関心を示さない幼児も一定数存在します。幼児期は、読み聞かせや親子での絵本の時間が、読書への関心や語彙力、想像力の育成に大きく影響する時期です。保護者の方は、短い時間でも毎日読み聞かせをするなど、無理のない範囲で本に触れる機会をつくることで、子どもが本を好きになるきっかけづくりにつながります。

質問6. 読み聞かせは大切だと思いますか。



読み聞かせは、子どもに読書習慣をつけさせるだけでなく、親子のコミュニケーションの時間としても大切です。物語に触れることで想像力や感受性が育ち、親子で一緒に過ごす豊かな時間にもなります。調査でも、多くの家庭が読み聞かせの重要性を感じていることがわかっています。

質問7. お子さんにスマホやタブレット等で動画を見せることがありますか。



多くの幼児がスマホやタブレットで動画を視聴する機会があることがわかりました。動画は、学習や情報の理解、遊びの一環として便利に利用できる一方で、長時間の視聴が習慣化すると、読書や遊び、生活リズムに影響を与える可能性があります。

幼児期は、文字や絵に触れる体験が読書習慣の基盤となる重要な時期です。動画の利用時間を1日の中で適度に調整し、読み聞かせや絵本の時間を確保するなど、生活の中でバランスをとる工夫が望まれます。

発行年月：令和8年3月

発行：海陽町教育委員会

〒775-0202 徳島県海部郡海陽町四方原字杉谷 73 番地

T E L : 0884-73-3100

F A X : 0884-73-3833

E-mail : kyoikuiinkai@kaiyo-town.jp
